

第二章 寺 院

耳成地区

本 願 寺 十市町七六二一

誓源山極楽院本願寺、融通念仏宗。

鐘楼門・本堂・庫裡・墓地などがあり、続いて社会福祉法人まこと福祉会の旧施設がある。鐘楼門の鬼瓦に、嘉永三年の刻銘が見える。本堂は一部本瓦葺を残し、全体が赤い銅板葺になっている。本堂などは昭和三十八年十二月二十七日夜半に出火してほとんど焼失したが、同寺が明治元年十一月十七日に購入した大神神社の経庫にあった平安時代から鎌倉時代にかけて書写された「大般若経」六百巻は、焼跡の本堂大壁の倒れた下から無事見つかった。経巻はその後再び大神神社の所蔵になった。現本堂は昭和三十九年に再建されたが、旧材が一部に使用されている。

本尊は阿弥陀如来立像、高さ七四・四糎ある。本堂内左手に大きい木造多宝塔がある。本堂内には注目すべき古い仏像がある。

木造地藏菩薩立像 檜材一木彫成、両手首が欠損し足もかなり損失している。お顔は目鼻口など柔和に表現されていて、衣文も下端は荒廃しているが、刻み方はしっかりしている。十世紀平安中期の作。

木造十一面観音立像 左手首は欠損しているが他はよく残る。像高三〇糎の小像であるが、頭部は比較的大きく、眼は膨眼、軀部は腰をややひねり肉付きはよい。衣文の刻みは浅く美しく流れている。十二世紀藤原時代の作。本願



本願寺

寺とこうした仏像との関連は明らかでない。

常願寺 十市町九五二

信長山常願寺、真宗興正派。

山門・本堂・玄関庫裡などがある。本堂は桁行四間半、梁行四間半、向拝付、屋根は本瓦葺であるが、棟の瓦葺など他の堂で見られないほど丁寧に葺かれている。鬼瓦に宝暦三年（一七五三）の刻銘がある。昭和五十三年に屋根の葺替修理が行なわれた。庫裡は昭和四十一年の再興である。

本尊阿弥陀如来立像を中心に、向って右脇壇に蓮如上人画像、左脇壇に本寂上人画像を祀る。別に余間に、聖徳太子、七高僧両画像が安置してある。

寺の草創は明らかにすることはできない。寺では、常願寺は十市町中殿にあつて聖徳太子の創立と伝え、もとは法相宗であつたと伝える。領主の村越道玄法師で、現在は第十六代釈了義法師となっている。

正覚寺 十市町一〇〇七一

以前は、かなり荒廃した本堂と庫裡があつたが、本堂は新しく改築されて面目を一新した。庫裡だけが以前の姿で残っていて、釘付けして出入することはできない。境内に十数基の古碑や石塔の残欠がある。天正六年（一五七八）の

供養碑や六字名号碑が目につく。

本堂は桁行三間、梁行二間あり、正面に「正覚寺阿弥陀堂」の自然木扁額がかけてある。内陣須弥壇中央に大日如来坐像を祀る。大日像は、もと十市御巢坐神社の神宮寺大日堂の本尊であった。像高一五四糎、桧材、寄木造の彫眼像で、金剛界大日如来の形相である。半丈六のかなり大きい像であるが、藤原時代の作になる柔かい感じのする像である。大日如来の向って右に不動明王立像、阿弥陀如来坐像、大威徳明王像を安置する。この中で阿弥陀如来像がこの堂の本尊である。像は桧材寄木造の坐像で、室町時代の作である。この阿弥陀像とは別に奈良の元興寺極楽坊より正覚寺本尊として丈六阿弥陀像を迎えたことが『大乘院寺社雜事記』寛正三年（一四六二）二月の条に記されている。或は現存の阿弥陀像を指すのではないかと考えられる。

一極楽坊万陀羅堂後戸丈六阿ミタ事、十市正覚寺ヨリ為本尊所望申入、不可有子細之旨仰返事、仍明日可渡云々、正覚寺実畔参ス、五百足折紙進之。

なお、左壇上に、弘法大師坐像、千手観音立像、役行者像、不動明王像、弁財天像、歓喜天像など大小諸々の仏像がある。弁財天像は境内の池島に祀られていた弁財天社にあったのをここに移したものらしい。

正覚寺には、この他地藏菩薩立像と天部立像があるが、貴重な文化財であるから、奈良国立博物館に寄託されている。地藏菩薩立像は桧の一木造で、像高九〇糎である。豊かな量感があり、大きい頭部やふとった体軀、力強い衣紋の刻みなど、平安時代前期の作で市内屈指の古像である。木造天部立像は、地藏菩薩像と相並らぶ古像で、桧材一木彫、像高一六四・五糎の堂々たる像で、この時代の彫法を示す翻波式技法も名残りをとどめている。平安時代中期の作。こうした立派な仏像もやはり、十市御巢坐神社の神宮寺にあった可能性を否定することはできない。

安楽寺 葛本町二五九

至心山願生院安楽寺、浄土宗。

門・鐘楼・本堂・行基堂・庫裡・客殿・墓地。

本堂は、桁行六間半、梁行五間、向拜付本瓦葺の古い堂で、内陣柱など太い面取柱が使われている。鬼瓦に正徳三年（一七一三）八月の刻銘が見える。江戸時代前期の浄土宗本堂として注目される。表門の鬼瓦に延享三年（一七四六）

の刻銘がある。この門は、近鉄新ノ口駅南東にあった青光寺が廃寺になったので移されたものである。鐘楼には新しい梵鐘が懸っているが、もとの古い梵鐘は供出されたが、終戦後返還されていま鐘楼内に置かれている。この鐘は第四代住職のとき元禄四年（一六九二）に鑄造されたものであるが、供出後、鐘身に多くの孔があげられたので、現在鐘楼内に保存されている。

本尊は阿弥陀三尊であるが、三躰とも坐像である。向って右脇壇に阿弥陀如来立像がある。像高六七糎木造素地の立像で、彫眼になっている。仏躰正面に縦に割れ目があるが、顔は円満でやさしく、藤原時代の作である。厨子入善導大師坐像、薬師如来および十二神将像が侍立する。この薬師如来像は、像内に一面金箔が押されている珍しい尊像である。像高五二・二五糎、桧材寄木造で、内刳が施こされている。螺髪も小さく面相はおだやかである。躰部の衣紋の流れは浅く上品にまとめられている。像内の漆箔は後補で



安楽寺

あるが、他に例が少ない。像は典型的な藤原仏といふことができる。

左脇壇に、厨子に納められた小さい五劫思惟弥陀像がある。山門の前、文政年間に立てられた標柱に、この像のとが刻まれている。江戸時代の作ながら、これも類例の少ない霊像である。五劫といふのは、仏教でいう長い年月をいうのであって、阿弥陀如来は四十八願を起こすために修行されたお姿で、頭髮は伸びるにまかせ、ついに大きい頭になったという貴い弥陀の像で、このことは「大無量寿経」に説くところである。なおこの厨子の隣りに法然上人坐像を祀り、つづいて毘沙門天、地藏菩薩立像などを安置する。

本堂につづいて行基堂がある。本尊行基菩薩像は、高さ四四・三糎、桧材寄木造に胡粉地彩色が施こされ、玉眼が入っている。この像には像底と礼盤裏に延享元年（一七四四）の造立銘が墨書されていて、大坂大仏師田中幸助作之とある。江戸時代の作であるが、作の年次や作者がわかる大切な資料となっている。延享元年は、行基菩薩の一千年忌に当るから、この機に造立されたもので、このことは礼盤裏の墨書によって明らかである。

庫裡と客殿は現在新しく改築中で、一部二階建、面積八一・三五坪の大きいもので、昭和六十一年に完成すれば、この地方の仏教文化の殿堂となることであろう。

庫裡の内庭に、鎌倉時代の大きい石造宝篋印塔がある。本堂の前方に、梅かわ、忠兵衛の碑がある。江戸時代の阿弥陀石仏碑で「休安禪定門忠兵衛、香薫禪定尼梅かわ」と刻まれている。

安楽寺の沿革は、寺伝によれば法然上人源空の弟子久野作仏房が熊野巡拝の帰路、建久三年（一一九二）七月、葛本の不経堂の地に一字の庵室を構えて念仏の道場とした。これを正徳三年（一七二三）十月現地に移転して安楽寺と号した。以来旧耳成村・多村など十一ヶ大字の墓寺として栄え、地方の人たちの信仰が厚い。

浄教寺 葛本町四一四

大乘山浄教寺、真宗興正派。

門・太鼓楼・本堂・玄関客殿・庫裡などがある。玄関は立派な建物であるが、門や鼓楼など吉野方面から移建したという。本堂は桁行四間、梁行五間半、向拝付本瓦葺である。

本尊阿弥陀如来立像は、宝永八年（一七一二）二月、康雲作である。向って右脇壇に見真大師画像、聖徳太子および七高僧画像を祀る。これら御影像三幅は、享保二年（一七一七）四月に本願寺から下付されている。左脇壇に本寂上人画像と厨子入の義民位牌を祀る。毎年五月八日に関係者相寄り法要が営まれる。これは江戸時代に十市郡葛本村を中心に、常盤、新賀、膳夫など九村（現在は樺原市）で宝暦三年（一七五三）に発生した百姓一揆で、世に十市騒動とか芝村騒動と呼んで知られている。当時は芝村藩の預け所となっていたが、次第に農作物などの取立が過酷になった。たまりかねた農民たちは、葛本村庄屋藤本小左衛門を中心に二百名ほどが、京都奉行所に窮状を直訴するに及んだ。しかし事は志と反して主謀者二十二人は流刑や村追放になったという悲しい顛末となった。その詳しいことは、後に藤本氏末えいによって、「位牌由来記」にまとめられ、位牌に納められた。

浄教寺は、文明三年（一四七二）秋、蓮如上人の御巡化あり、時の住職密城は教順と改め、大乘山浄教寺を称するようになったという。元禄九年二月から現住まで十二世になる。

（蓮台寺） 葛本町四〇一

浄教寺の寺門前に道路をはさんで、観音堂がある。傍らに本郷の集会所がある。

観音堂は、桁行三間、梁行二間半で、前縁がつき、すぐ会所に通ずる。堂と庫裡のような位置関係にある。内陣に阿弥陀如来坐像二軀と不動明王立像、地藏半跏像を安置している。もとここに蓮台寺があったと伝えるから、観音堂はその名残りであろう。現在は浄教寺下にあり、付近の講の人たちの信仰が厚い。堂も新しく再興されている。

教 円 寺 常盤町一〇四

真宗大谷派。

門・本堂・庫裡・庚申堂・地藏堂がある。門の鬼瓦に天明元年（一七八一）七月の刻銘がある。庫裡は近年新築された。本堂は入母屋造、本瓦葺で桁行三間、梁行五間、三方縁になっている。

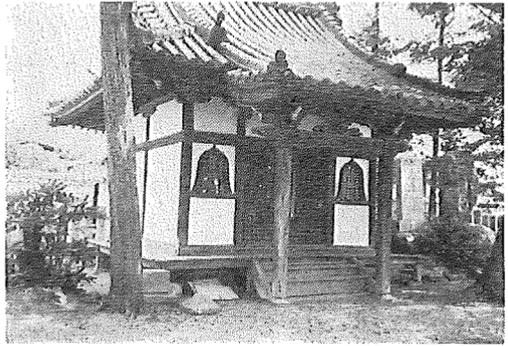
本堂内陣に、本尊阿弥陀如来立像を中心に、向って右に見真大師と聖徳太子の画像を祀り、左に蓮如上人と七高僧画像を祀る。御本尊の下付、寺号の公称時期については明らかでない。もとは高塚村惣道場であった。九条御別殿を示す木札に、安政五年（一八五八）には、大和国十市郡常盤村教円寺とある。

境内の庚申小堂には、石造の庚申碑が立っている。地藏堂は外の道路からも格子戸を通して参詣できるようになっている。本尊は木造の地藏菩薩立像で後補の極彩色が施こされている。もう一軀素地の地藏菩薩立像があるが、二軀とも江戸初期の作とみる。

常 光 寺 常盤町三八三

登岡山常光寺、真宗興正派。

門・本堂・庫裡がある。本尊は阿弥陀如来立像、内陣左右に前住本昭上人、七高僧画像、右に親鸞聖人、聖徳太子



薬 師 堂

画像を祀る。寺では二五〇年程前に開かれたというが、詳しい記録はない。薬師堂 寺の前方に春日神社がある。社務所の傍らに二間四面、正面向拝付、三方両縁の薬師堂がある。本尊薬師如来、日光月光両脇侍と十二神将像などを祀る。この堂は常光寺が管理している。堂の鬼瓦に、天明七年三月の刻銘がある。

憶 念 寺 東竹田町四六三

真宗興正派。

本堂は桁行三間、梁行五間、正面に向拝がついている。門はもと多武峯にあったものといい、明治十二年にここに建立されている。本尊は阿弥陀如来立像、向って右に祖師御影像、左に七高祖の画像をかけている。住職は新口町の善福寺住職が兼務している。本堂前方に、この村出身力士の「羈ヶ浜藤右衛門」の天保十四年の大きい石塔がある。寺の沿革は明らかでない。

融 宣 寺 東竹田町四六四

融通念仏宗。門・本堂・庫裡がある。

本堂は本瓦葺、五間四面の大きい堂で、向拝と門が相接している。古い立派な本堂で、江戸初期のものといわれる。東竹田町は宝永年間に全焼し、この寺も類焼した。現本堂は、元河内松原市の大念寺末の西念寺の堂を明治三十

五年に買いとって移築したものである。安永二年（一七七三）の棟札写がある。融通念仏宗の建築平面がよく表われている。

内陣中央に阿弥陀三尊を祀り、向って左に開山良忍上人坐像、右に中祖法明上人坐像を安置する。融通念仏宗の本尊十一尊天得如来画像は大切に箱に納めて祀ってある。他に涅槃画像を安置する。ここで注目すべき像は、木造地藏菩薩立像で、像高五一糎の比較的小像ながら、平安時代末期のすぐれた作である。

宝物に大通上人御所持の説相箱と、上人直筆の序文のついた過去帳がある。別に「施餓鬼飲食次第」があり、紙数十八枚、末尾に「弘安元年 戊寅 七月廿□日未始於西大寺記之、金剛仏子叡尊」と記されている。かなり古い写本で重要な資料である。

寺の沿革は明らかでないが、延宝五年（一六七七）の本山末寺帳にも記載されていて、古くからある寺であるが、開基のことは不詳と記されている。

前庭に慶長十一年（一六〇六）の板碑形六字名号碑がある。以前は一時浄土宗であったかもしれない。

（大 日 寺） 東竹田町四九五

竹田神社に隣接して大日寺の堂がある。もとは竹田神社の神宮寺であった。堂の傍らの公民館はもとの庫裡である。大日堂は桁行三間、梁行三間の宝形造で、内陣に本尊大日如来坐像を中心に、地藏半跏像や弘法大師坐像などが祀られている。他に薬師如来像があったが、数年前に盗難にかかったままになっている。しかしこの仏像が納められていた厨子が残っていて、奥板に寄進の墨書があって宝永六年（一七〇九）七月十二日の年号などが記されている。

本尊大日如来像は、木造素地玉眼の檀像で、高さ一〇〇糎ある。宝冠や瓔珞などは当初のままである。幸にして像

内に墨書銘があって、弘治元年（一五五）に南都宿院仏師源次らの作になる。この像も薬師像とともに、昭和五十四年九月二十日に盗難にあったが、その後大日如来は無事帰ってきた。

大日堂の建立年代については、鬼瓦に寛永三年（一六二六）の刻銘がある。建造物の細部を見ると、江戸時代初期の様式を具えているから大体寛永三年ごろの建立になるものであると考えられる。大日寺は当時真言系統の寺であっただろう。

浄 楽 寺 中町二七九

浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡があり、門前に石龕があって、大永四年（一五二四）在銘の釈迦半肉彫の石仏がある。門の鬼瓦に寛保二年（一七四二）の刻銘が見える。

本堂は入母屋造本瓦葺で桁行三間、梁行四間、正面に一間の向拝がある。この堂はもと多武峯の輪蔵を移したものと伝えられ、かなり改造されているが、他の真宗寺院には見られない特色ある堂である。江戸時代中期の建立と考えられる。正面入口に幅二間の迦陵頻伽の陽透彫の彫刻が目につく。内陣両側には二連の花頭窓がついている。談山妙楽寺の輪蔵は社殿の下方にあったが、維新の神仏分離によって輪蔵も不要になり、当地に移されたものである。移築に当って内陣部分を付けて改造したもので、内陣部分は両脇半間ずつ広くなり、この部分は梁行五間になっている。多武峯の輪蔵を知る重要な資料である。

内陣中央須弥壇に本尊阿弥陀如来立像を祀り、向って右壇に見真大師、本如上人、七高僧の画像を祀り、左脇壇に聖徳太子画像をかかげ、位牌などを安置している。

浄楽寺の沿革については資料がないので明らかにすることはできないが、もとは法相宗であったといわれている。

(観音堂) 中町二七二

式内坂門神社の境内に接して観音堂がある。堂は二間四面本瓦葺で、正面に向拝がついている。昭和三十六年の第二室戸台風で被災したが、すぐに改修されて現在にいたる。

内陣須弥壇中央に、江戸初期の本尊十一面千手観音坐像を安置する。観音講の人たちが定例にお祀りしている。本堂の横に人家があるが、この辺りに庫裡があったと見られる。

寺名は明らかでないが、式内社の神宮寺としてかなり栄えたものと考えられる。

(浄福寺) 石原田町七二

市杵島神社の神宮寺で、最近まで堂や庫裡が残っていたが、現在はその場所に新しく二階建の石原田会館が建設された。「浄福寺」と「市杵島神社社務所」の門札が掲げられている。一階の大広間正面に二段の長い仏壇が設けられ、浄福寺の仏像を祀っている。

本尊は阿弥陀三尊立像で、他に不動明王や弘法大師坐像などがある。この建物の東に「庚申碑」や多くの石塔残欠があつて室町時代初期ごろの宝篋印塔や五輪塔の残欠がある。珍しいのは、六十六部供養碑で、天文十三年(一五四四)の紀年が刻まれている。これはいわゆる廻国信仰である。石造遺物などからみて、浄福寺はかなり古い歴史のある寺である。

阿弥陀寺 山之坊町三八三

耳無山阿弥陀寺、浄土真宗本願寺派。

門・玄関・庫裡・本堂がある。境内に新しい山之坊町公民館として使用している建物もある。門の鬼瓦に寛政八年（一七九六）三月の刻銘がある。本堂は桁行五間、梁行五間あり、東面している。堂は三方縁になっている。

本尊阿弥陀如来立像、向って右に親鸞聖人の御影像を祀り、左に蓮如上人、七高僧および余間に聖徳太子画像を祀る。なお別に阿弥陀如来坐像が厨子に納められている。桧材寄木造漆箔、来迎印を結ぶ坐像で彫眼である。像高五二・六種、顔や体軀の表現は豊かであるが、衣文の扱いはやや形式的になっている。鎌倉時代初期を降らない作である。像内に元禄十二年（一六九九）の修理銘がある。

寺の沿革については、寛政六年（一七九四）に釈恭順が記した「阿弥陀寺略縁起」に大体次のようなことが書かれている。

曆応二年（一三三九）五月二日、和州十市郡耳成山の北麓に一字を建立し、阿弥陀如来坐像を安置、耳無山山之坊阿弥陀寺と号した。律を以て宗となす、とあるが、おそらく真言律宗の寺だったのである。ところが天正十六年（一五八八）に伽藍が焼失してしまった。その時行方が判らなかつた本尊が幸にして見出されたので、別堂を構えてこの靈像を移して真宗の道場とした。これが現在の阿弥陀寺である。寛文十一年（一六七二）ごろ、本山寂如上人より阿弥陀如来立像と寺号を許された。本堂は寛保年中に造営して現在に至る。

阿弥陀寺では、世話人衆の男講や仏教婦人会の人たちの尼講が月例に行なわれている。

大行寺 木原町二八一

竜華山大行寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂があり、庫裡は改築された。門の鬼瓦に弘化の文字が見える。庫裡は昭和六十年末に一応完成したが、旧建物は安政二年（一八五五）三月八日に再建上棟されたもので、その棟札がある。

本堂は、桁行三間、梁行四間半、正面向拝付、本瓦葺で創建は元禄二年（一六八九）、再建は寛政七年である。鬼瓦に明和二年（一七六五）の刻銘が見える。

本堂内陣中央に本尊阿弥陀如来立像を祀り、向って右に見真大師画像、七高僧および聖徳太子画像を祀り、左に蓮如上人画像を祀る。庫裡内仏に古い阿弥陀如来立像を安置するが、これは惣道場だったころの本尊といわれている。大行寺は、元禄二年に釈良念によって創立されたと伝える。

西教寺 新賀町三八〇

真宗興正派。

門・本堂・庫裡がある。庫裡は二階建の大きい建物で最近完成した。本堂と新しい庫裡の間に本瓦葺の旧庫裡の一部が残っている。

内陣中央に本尊阿弥陀如来立像を中心に、向って右に見真大師、七高僧、聖徳太子の各画像を祀り、左脇壇に本寂上人画像を祀る。方便法身尊像の裏書は、紀年は残らないが、「本願寺釈良如（花押）」の尊名が見える。

西教寺の沿革など詳しいことはわからない。

浄正寺 上品寺町一三二

桂花山浄正寺、真宗興正派。

本堂と庫裡がある。本堂は道路にすぐ接しているので、門や前庭がない。どうも当初からこの姿であつたらしい。市内では珍しい門なし寺であるが、それだけに人々の身近かにある存在である。本堂は桁行・梁行とも五間で、正面に縁があり向拝がついている。

内陣の一部中央が幅一間ほど外陣に出ている。後世の造作であろうが、欄間の彫刻などもそれに従って整えられている。本尊阿弥陀如来立像は、本願寺仏師康雲の作である。向って右に見真大師と聖徳太子画像を祀り、左に本寂上人と七高僧画像を祀る。

縁起の詳しいことはわからない。ただ右の聖徳太子画像と七高僧画像には、古い裏書が貼付されていて宝暦九年（一七五九）の銘記があるから、沿革を知る一資料となる。

本願寺 釈法如（花押）

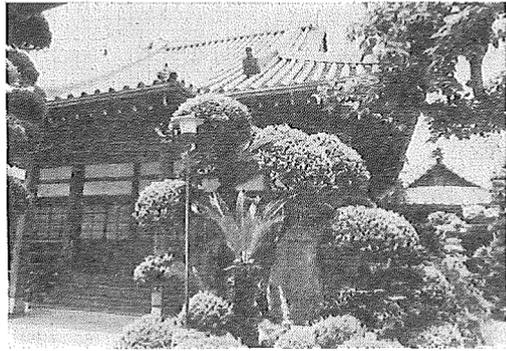
宝暦九己卯年極月廿九日

興正寺門徒

大和国十市郡上品寺村

惣道場浄正寺

善福寺 新口町四五四



善福寺

真宗興正派。

表門の楼上是太鼓楼になっている。正面に本堂、玄関と新書院「樹心窟」があり、向って右に庫裡がある。本堂の横と背後にいくらかの墓地がある。本堂は、昭和四十七年に全焼した。現本堂は昭和五十年三月に新築された。本尊阿弥陀如来立像は、普通の真宗寺院に見られる下付仏と異なり古式の仏像である。両側に見真大師、聖徳太子、本寂上人、七高僧の御影像を祀る。玄関、庫裡、門は江戸時代末の建築で、火災には焼けずに残っている。

本堂前方に、梅川忠兵衛ら二人の自然石の供養碑が立っている。この碑は以前は少し離れた忠兵衛屋敷跡と伝える土地の一隅にあったものを明治十六年寺の境内に移したものである。近松門左衛門の脚色によって竹本座で上演されてから一躍世の話題となり、いろいろな伝承が生まれるようになった。この碑は、二ノ口村の人たちが結縁で造立した六字名号碑であるが、碑自体

は少々古いものである。

善福寺は、もとは「青光寺」といい、真言宗の寺であった。寺名を刻んだ古い扁額と文字の原本が伝えられている。また本堂前庭に鎌倉時代末の石造宝篋印塔がある。近くの墓地から移されたものである。

日 宝 寺 新口町一八六

大珠山日宝寺、法華宗真門流。

本堂の手前に、巨大な日蓮聖人の石像が立っている。七百年御遠忌に当る昭和五十一年に造立されたものである。鉄筋の本堂に続いて会館、庫裡などがある。本堂の前方縁の隅に大きい梵鐘が据えられているが、いずれ新しく鐘楼ができるであろう。

本堂内陣には、一塔両尊一祖四菩薩と十界大曼荼羅が本尊として祀られている。一塔は題目塔をいい、釈迦牟尼仏と多宝如来の両尊を配し、前に法華経を奉安し、祖師日蓮聖人像を安置する。普賢・文殊両菩薩、不動明王、愛染明王、前方に鬼子母神、十羅刹女像を始め、法華宗ゆかりの諸尊像を祀り、四隅に四天王を配している。

日宝寺は沿革によれば、開基妙淳院日宝大法尼の念願により、榛原の青竜寺大阪布教所が昭和四十三年に八尾市に創設された。その後次第に発展していった。八尾の日宝寺は寺地が狭く修行道場として狭小不適になってきたので、昭和四十九年十二月現在地に移り、同五十年十月十九日に正本堂の地鎮祭が営まれた。同五十一年十二月に宗教法人の認証をうけて今日見るような一大殿堂となり、多くの人びとの信仰修行の場となった。

(薬師堂) 新口町四八〇

聚落の中央部に須賀神社がある。境内の向って右側に、公民館とそれにつづいて「新ノ口庵」がある。ここに薬師如来が祀られている。庵の前に石造宝篋印塔などがある。ここは神仏分離前まで薬師堂があった名残りである。

普賢寺 西新堂町一七一

上宮山多聞院普賢寺、真宗興正派。

小さい門を入ると正面に本堂、向って左手に庫裡がある。本堂は本瓦葺で、本来は桁行三間、梁行四間で三方廊下

であったが、現在は両側の廊下を取りこんで本堂内部は広くなっている。本尊は木造阿弥陀如来立像、左右に親鸞聖人と本寂上人の御影像を祀る。右脇陣に、厨子入の聖徳太子像が安置されている。この像はいわゆる南無仏太子と呼ばれる太子二才像である。松材寄木造の立像で玉眼入りで、像高五五・五厘の彩色像である。台座裏面に墨書銘がある。「和州十市郡新堂里普賢寺本尊也、寛正五年甲申霜月廿八日奉造立者也」とあって勧進衆の名が記されている。これによると、太子像はもとの普賢寺の本尊として寛正五年（一四六四）に造立されたことがわかる。その頃は寺名院号や本尊などからみて真言宗の寺であったと考えられる。

（地藏堂） 西新堂町二一五—二一

曾我川の西岸、中街道に面して瓦葺の地藏堂がある。本尊は地藏石仏で、花崗岩高さ一一二厘、幅五二厘の舟形の石に、宝珠を捻じ錫杖を執る立像が半肉に陽刻されている。いまも近在の人たちの信仰が厚く香華が絶えない。像の両側に、弘治三年（一五五七）、二月廿四日の陰刻銘がある。

畝傍地区

教宗寺 四条町三四

畝傍山教宗寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・鼓楼・鐘楼・土蔵・庫裡・客殿・井戸屋形・小門などを備えている。本堂はじめ堂舎は畝傍山麓より大正九年から十一年にわたり現在地に移転した。本堂は不幸にして昭和三十三年に火災にて焼失してしまった。直ちに



教宗寺



妙観寺

画像は文政十三年にそれぞれ下付されている。本堂火災の際、本尊はじめ主要な画像は取り出されて難を免かれた。

妙観寺 四条町二〇五

向曉山妙観寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・二階建の庫裡がある。本堂は入母屋造、桁行四間、梁行三間半、本瓦葺で、安永十年（一七八二）再建という。正面の向拝柱石に室町時代の大きい五輪塔の蓮坐が使用されている。本尊は阿弥陀如来立像で、安永十年に下

復興に着手、間もなく竣工したのが現本堂である。その他の建物は客殿に二階をつけただけで当初のまま残存している。

本尊は阿弥陀如来立像、寛文十一年（一六七二）四月七日本山より下付、洞村西惣道場教宗寺と公称する。見真大師画像と湛如上人画像は宝暦十年下付、聖徳太子、七高僧画像は寛延四年に下付、恵灯大師像は寛政四年、九字名号は万延元年、見真大師絵伝は文化十一年、本如宗主

付され、四条村辰巳惣道場妙観寺と称した。他に見真大師、蓮如上人、本如上人の画像は天保四年下付、聖徳太子、七高僧画像は寛政元年に下付されている。この寺は明応四年（一四九五）の創立といい、開基仏の方便法身如来画像の裏書に明応四年乙卯七月十八日とある。寺伝では、天平時代の昔からこの地に草堂があったといい、その後皇慶寺と称したこともあると。

東 通 寺 四条町三四八

浄土真宗本願寺派。門・本堂・庫裡がある。庫裡・客殿とも昭和六十年二階建て新築、本堂は明治二十二年延焼、本尊や主要な御影画像は持出して被災を免がれた。本堂鬼瓦に文化二年の刻銘が見えるが、現本堂は明治二十二年焼失後すぐ再興された。本尊は阿弥陀如来立像、安政五年十二月法如上人より下付された。他に見真大師、本如上人、蓮如上人、聖徳大師画像は天保二年下付、聖徳太子、七高僧画像は弘化二年に下付されている。宝物に寛保三年（一七四三）の喚鐘があったが、現在は昭和二十六年檀徒寄付の鐘がある。

称 詮 寺 四条町六七三一

橋本山称詮寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡・座敷がある。本堂は入母屋造三方庇向拝付、棧瓦葺、桁行五間、梁行二間半ある。庫裡は二階建になっている。本尊は阿弥陀如来立像で、法如上人より宝暦九年（一七五九）三月二十七日に下付されている。その他見真大師（寛政八年）、蓮如上人（寛政十年）、聖徳太子、七高僧（二幅とも天明十年）、法如上人（寛政三年）、広如上人（明治七年）の画像がある。

寺は本願寺蓮如上人が吉野の飯貝へ通われた時立寄られたと伝えるが、それ以前浄賢禪門が鎌倉末期に建てた小泉堂の後身ともいう。

願 専 寺 四條町九〇三

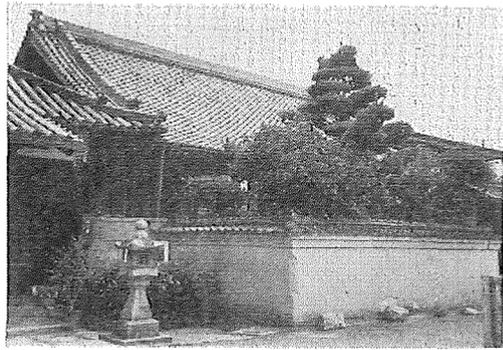
浄土真宗本願寺派。門・本堂・庫裡などがある。本堂は入母屋造正面向拜付、本瓦葺、桁行四間、梁行二間庇付。本尊は阿弥陀如来立像、他に見真大師、湛如上人、聖徳太子、七高僧画像などがあるが、裏書によれば何れも延享元年（一七四四）に下付されている。仏具に六角形釣灯籠があるが、享保十七年（一七三二）の銘がある。喚鐘は延享三年（一七四六）であるから、享保ごろに堂が完成したものだろう。また延享元年に御影像が下付されているから、その前に本尊木仏が下付され、願専寺と公称していたと考えられる。

実 相 寺 大久保町三六二

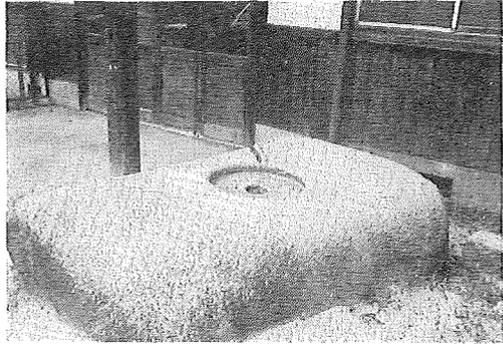
東光山実相寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。本堂は昭和四十三年改築せられ鉄筋の新しい堂となった。門や庫裡も立派に改修された。本尊は阿弥陀如来立像で、宝暦七年（一七五七）七月十一日本山より下付され、他に見真大師、聖徳太子、本如上人、七高僧の画像などを祀る。延宝六年（一六七八）の古い位牌があつて、領主神保氏のものと思われる。沿革は明らかでないが、宝暦七年に本尊下付、天保十二年に諸画像が下付されていることだけが明らかである。

国 源 寺 大久保町四〇四



国源寺



国源寺礎石

る。不空繻索観音は寄木造漆箔玉眼入の立像で、像高九五糎あり、台座反花裏面に「永禄六年癸（二五六三）卯月朔日、南都宿院源次作」の墨書銘がある。聖徳太子像は、寄木造彩色玉眼入りの二歳立像で、像高七八糎あり像頭部内側に正安四年（一三〇二）九月廿六日覚道などの墨書銘があつて、鎌倉時代の太子二歳像としては在銘資料として重要なものである。

西向寺 四分町二〇七

神告山一乘院国源寺、浄土宗。本堂庫裡・観音堂・地藏堂がある。当寺は「多武峰略記」などに記す大窪寺の後身といわれる。もとは畝傍山麓の神武天皇御陵兆域の一部にあつたのを、明治初年に御陵修築のとき、現地に移し国源寺と称したという。現に寺の前方大久保町公民館に巨大な塔の心礎がある。本尊は阿弥陀如来立像を祀る。隣接する観音堂には、中央に不空繻索観音、右に聖徳太子像と弘法大師像などを祀

浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡などがある。門と庫裡は昭和五十八年に新築、本堂は江戸末期の建立で、内陣に本尊阿弥陀如来立像（康雲作）、他に見真大師（天保十一年下付）、本如上人（同）、および聖徳太子（寛政九年下付）、七高僧画像（同）などを祀る。沿革は明らかでないが、本尊背面に「本善寺光慶寺名称寺門徒中、和州高市郡四分村惣道場西向寺」と記されているから、本末関係はわかるが、それ以前のこととはわからない。境内に石塔の残欠石が数個あるが、今後の調査を要する。

正 恩 寺 四分町二三一

浄土宗。

堂庫裡で元禄三年ごろの建築と伝える。本尊は阿弥陀如来立像、像高六四・七糎、彫眼で室町時代の作。観音・勢至両菩薩が侍立する。他に善導・円光両大師坐像、地藏菩薩、弘法大師の小坐像などを祀る。宝曆九年（一七五九）銘の喚鐘がある。

寺は元来真菅の五井称名院の末寺であったが、明治三十七年から称名院仙誉がここに隠棲した。

光 明 寺 城殿町二〇八

延宝山光明寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡・客殿がある。本堂は入母屋造、桁行三間半、梁行四間半、正面向拝付、本瓦葺で、宝曆二年（一七五二）に再建された。その後、昭和三十六年に内陣改修、昭和五十六年親鸞聖人御生誕八〇〇年記念に屋根替工事

が行なわれた。この機会に昭和五十八年に庫裡・客殿が新築された。

本尊阿弥陀如来立像を中心に、向って右脇壇に見真大師画像、左脇壇に慧灯大師、聖徳太子、七高僧画像を祀る。見真大師画像、聖徳太子、七高僧、良如上人画像は正徳三年（一七一三）三月に下付された。慧灯大師画像は明治四十四年十月本山より下付されている。

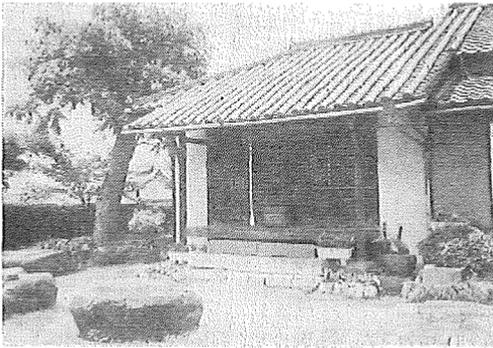
城殿の惣道場であったこの寺に、寺号ならびに木仏が本願寺門主寂如上人から下付されたのは、延宝二年（一六七四）五月である。その後宝暦二年に本堂が再建され、修理を経て現在にいたっている。記録としては、宝暦二年の「本堂造立目録」がある。

本薬師寺 城殿町二六八

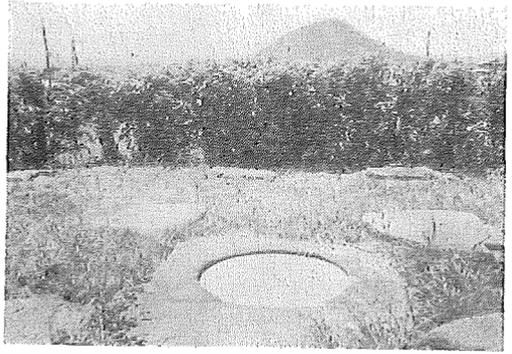
白鳳山医王院本薬師寺、真言宗。

本堂と庫裡がある。境内は白鳳九年（六八二）創建の薬師寺の中心になるので、立派な礎石が露出して並んでいる。遺構については考古学関係で詳しく記されると思うから、ここでは、その遺跡上に後世建立された本薬師寺について記す。この寺は、大正時代は浄土宗鎮西派知恩院末であったが、その後住職が変わって真言宗醍醐三宝院末になった。住職の没後、現在は堂守が住んでいるだけである。

本堂は、寄棟造、桁行二間、梁行二間の小堂で、本尊薬師如来坐像を中心に、向って左に弘法大師坐像、阿弥陀如来坐像、地藏半跏像がそれぞれ厨子



本薬師寺



本薬師寺塔跡

に納められている。右に虚空蔵菩薩坐像、阿弥陀如来坐像二軀が祀られている。往昔の薬師寺を偲ぶ文化財は何もない。後世別に小堂が建立され祀られた仏像ばかりである。本堂は棟札によれば、元禄五年（二六九二）の建立とされている。境内地および周辺は昭和二十七年三月「本薬師寺跡」として特別史跡に指定、橿原市が管理している。近年の発掘調査で、創建当初の薬師寺の全貌が次第に明らかになってきた。

信光寺 御坊町四

金剛閣信光寺、浄土真宗本願寺派、畝傍御坊という。

門・本堂・庫裡・鐘楼・納骨堂・北門などがある。北門と庫裡・納骨堂は新しい建物になったが、本堂・鐘楼・表門は大修理を経て古い姿を残す。もと立派な客殿や庫裡があったが、破損がひどくなってすっかり取壊しの上、昭和五十九年に二階建の新しい庫裡になった。本堂は桁行九間、梁行一〇間半、入母屋造、本瓦葺の大きい建造物である。慶長十七年（一六二二）の建立と伝えるが、様式上は江戸初期の特色をよくとどめている。何回かの大修理が行なわれたが、外観、内部とも御坊寺院にふさわしい風格を備えている。内陣部分は上段とし、中央に内陣を配し両脇に余間を設け、その外側に飛檐間をおく。

本尊は阿弥陀如来立像、慶長十八年に本山から下付された。他に見真大師、蓮如上人、准如上人、顕如上人、聖徳太子、七高僧画像などを祀る。宝物に蓮如上人染筆の六字名号、顕如上人染筆六字名号の軸をはじめ、古記、古文書



信光寺

などがある。

寺の旧記によれば、慶長十七年に領主神保長三郎は本願寺の信光院殿准如上人に帰依しこの寺を建立した。以来本願寺兼帯の坊となり、元和九年に河内国石川郡春日村光福寺住職性覚が来任、畝火御坊光福寺と号した。延宝六年、本山より信光寺と改号になり現在にいたる。その他詳細な寺の変遷が記録されている。

法満寺 田中町一七五

卷向山宝蔵院法満寺、浄土宗。

門・本堂庫裡がある。本堂は入母屋造四方庇で桁行七間、梁行三間で庫裡に続いている。本尊阿弥陀如来立像で観音・勢至両菩薩が侍立している。その他弘法大師、円光大師、地藏菩薩像を祀る。仏画に善導大師、円光大師、釈迦坐像、涅槃像、阿弥陀如来像などがある。境内に室町時代の五輪塔の各部がいくらか残欠になっている。

寺の由緒沿革は不明である。田中町の地は古い土地柄で、舒明天皇御母糠手姫や蘇我稻目宿禰の後裔田中臣などにゆかりがある。

大仙寺 田中町二〇〇

八代山大仙寺、浄土真宗本願寺派。



大 仙 寺

門・本堂・庫裡・客殿がある。門は明治九年に多武峯の妙楽寺子院の門を譲りうけて移築した。本堂は入母屋造四方庇妻入、正面向拜付で、天文二年（一七三七）の建立。庫裡は明治十八年檀家の一棟を移し改造した。昭和六十二年四月に客殿が新築された。

本尊は阿弥陀如来立像、康雲作、背面の銘に「興正寺門徒順明寺下、和州高市郡田中村惣道場大仙寺」とある。他に安永二年（一七七二）下付の見真大師、聖徳太子、七高僧の画像や文政九年下付の文如上人画像などを祀る。境内に開基覚眠の碑（天保三年言慧立之）がある。覚眠は寺伝によると、天文年間肥後国八代村より諸国伝道に向かい、途中仏教有縁の地であるこの地に一字の草堂を建て惣道場としたのが始まりである。

本 明 寺 石川町五六五

浄土宗。

寺は石川精舎の跡に建てたと伝える由緒をもつ。本堂と庫裡があるささやかな構えであるが、境内に土壇が残り、巨大な五輪塔がある。五輪塔は蘇我馬子の塔と伝えられ、高さ二三〇糎、各部完備する鎌倉時代の立派な石塔である。

本堂は入母屋造、三間四面で庫裡に接続している。本尊は釈迦如来、文殊・普賢の両脇侍がある。他に阿弥陀如来、地藏菩薩、元祖大師像などを祀る。宝物に釈迦涅槃画や二十五菩薩来迎図などがある。

法輪寺 大軽町三七三

浄土宗。

表門を入ると、桁行六間半、梁行四間の大きい本堂がある。現在見瀬町の阿弥陀寺住職が兼務している。本尊は阿弥陀如来坐像を中央にして善導大師、法然上人の両坐像を祀る。他に薬師如来、地藏菩薩、十一面観音、弘法大師像などを安置する。



木明寺



法輪寺

法輪寺は春日神社に隣接し、この辺り一帯から奈良時代前期の古瓦が出土する。ここが『日本書紀』朱鳥元年（六八六）の条に初見する軽寺の跡と伝える。神社境内に「応神天皇軽豊明宮址」の碑が立っている。したがって、法輪寺はこうした由緒ある地に建立された寺で、軽や大軽の地名とともに古代史上由緒深い土地からである。

妙法結社 五条野町八〇五

日蓮宗、本山見延山。堂庫裡になっていて正面は本堂になっている。昭和三十五年建立。本尊日蓮上人坐像を祀り、二仏一塔すなわち宝塔を中心に、多宝・釈迦如来を奉安する。前に法華経二十八本を安置する。毎月一日、十五日には大阪・豊中・池田各市をはじめ近在からも信者が参詣する。

正 楽 寺 五条野町八八七―

東光山正楽寺、浄土宗。

本堂・庫裡・十三重石塔がある。本堂は鉄筋二階建の立派な堂で、二階が本堂になっている。この寺はもと、嵯峨山中にあった顕福寺と昭和四十二年八月に合併し、同四十三年一月現在の位置に移転した。以前の寺地は、五条野町一〇九一番地で、聚落東端れの台地にあった。その場所には墓地があり、新しい葬場が建っている。

正楽寺の本尊は、阿弥陀如来坐像で像高八七・三糎、鎌倉時代初期の秀作である(市指定文化財)。向って右に善導大師と円光大師の両坐像と弘法大師像を安置する。左の位牌壇には多数の位牌と阿弥陀像と地藏立像を祀る。

本堂前方の石造十三重塔は、相輪の頂端部が一部欠損しているほか完備している。塔身に四方仏を刻み出しているが、全体として鎌倉時代後期の様式をもつ大切な石塔である。

この寺の沿革は明らかでないが、いろいろな遺物や文化財からみてもかなり古い寺であることがわかる。

(顕 福 寺) 五条野町二九五

嵯峨山梅本院顕福寺、浄土宗知恩院末であった。昭和四十二年八月に同じ宗派の同地正楽寺と合併した。

もとの本堂は、寄棟造本瓦葺、桁行二間半、梁行三間半あり、別に切妻造の庫裡があった。本尊は、像高一糎の

阿弥陀如来坐像、什宝物に地藏立像、開山上人木立像、弘法大師坐像などがあつた。

天 上 院 見瀬町四六八

灯明山天上院は高野山真言宗に属する。

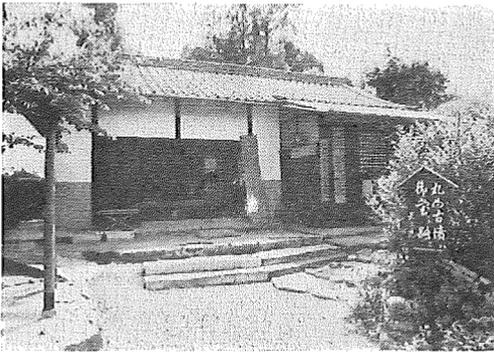
本堂・庫裡・座敷などがあつて熱心な信者が参集してくる。本堂須弥壇には、弘法大師坐像を中心に不動明王を配し、関係者の位牌を安置している。

寺の裏山に石造十三重塔が立っている。これは昭和四年五月、久米寺の住僧が建立した万霊塔で、久米寺と関係の深い天上院が管理している。

天上院は小高い丘陵の上にあつて眺望がよい。ここは丸山古墳の前方部に当る。ところで、周囲は一面畑になつていて後円部はあたかも独立した円墳のように見える。しかし全長三一〇米もある前方後円墳で、わが国有数の巨大古墳である。

日本山妙法寺 見瀬町三一

日蓮宗。小高い丘陵の上にある。堂庫裡があつて寺の入口に紀元二六〇〇年に建立した大きい題目碑が立っている。昭和の初めごろにできた寺で、本尊釈迦如来、日蓮聖人らを祀る。毎月十一日に信者が参集して法要がある。現在は三代目という。



天 上 院

阿弥陀寺 見瀬町三三三

光照山護国院阿弥陀寺、浄土宗。

現在は知恩院末であるが、もとは東京芝の増上寺末であった。表門・本堂・観音堂・地藏堂・玄關・庫裡・墓地がある。本堂は桁行梁行とも六間半、正面向拝付、本瓦葺の大きい建造物で、もとの本堂が宝永二年（一七〇五）二月焼失し、同三年六月に再建されたものである。

本尊は阿弥陀三尊坐像、向って左に地藏菩薩立像、両側に円光大師・善導大師の両祖師像を祀る。また木造金泥漆箔の阿弥陀如来坐像があるが、像高一八七糎、平安後期の作である。

観音堂は二間四面宝形造露盤付で、内部は中央に十一面観音立像、向って右に薬師如来坐像、左に弘法大師像を安置する。この十一面観音像は像高一六八糎余あり、表面はかなり荒れているが、堂々たる風格をもつ平安時代後期の作である。

庫裡は入母屋造二重庇、本瓦葺で桁行十三間、梁行四間半の長い建造物で、江戸時代初期の造立かと思われる。観音堂の前方に、慶長十二年銘の花崗岩自然石の六字名号碑がある。この寺の西方台地に見瀬町善導寺共同墓地がある。

阿弥陀寺の由緒は、一誉無山上人を開山とし、現住は第二十九世という。



阿 弥 陀 寺

少なくとも六百年は経ていることだろう。爾來寺運いよいよ進展し、多くの檀信徒を有する大寺となり、総本山知恩院から中本山の地位を授けられた。県下浄土宗寺院として重きをなしている。

称名寺 見瀬町一九八五

恵日山称名寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡などがあって、本堂の横に墓地がある。もと台石に使われていたという明応四年（一四九五）の五輪塔地輪や古い石塔の残欠が目につく。付近にあった廃善導寺関係の遺物ともいわれている。

本堂は入母屋造妻入向拜付本瓦葺で、桁行五間、梁行四間ある。本尊阿弥陀如来立像を中心に、見真大師、蓮如上人、聖徳太子、七高僧の画像を祀る。更に別の阿弥陀如来立像がある。これはもと大輶の妙原寺が廢寺になったので、ここへ移したものである。

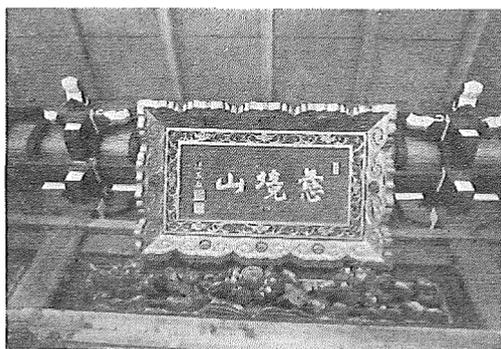
由緒沿革については記録はないが、文明年間に蓮如上人の教化で真宗に改宗したようである。阿弥陀如来画像の裏書に、文明十五年中興誓真とあるから、そのころに真宗になったものだろう。

福栄寺 見瀬町二〇〇〇

慈境山福栄寺、浄土真宗本願寺派。



称名寺



福永寺の扁額

表門は明治十七年に多武峯から移した立派な板扉がついている。本堂は入母屋造、桁行五間半、梁行五間、向拝付本瓦葺で、最近大改修され、昭和五十九年十二月に落慶した。この堂は、文化七年（一八一〇）の建立で、庭前に降ろされた瓦に「文化七年午八月中旬、高市郡箸喰村瓦屋新七」の刻銘がある。本堂の傍らに新しく完成した納骨堂がある。また本堂の横に古い庫裡がある。この辺りでは珍しいソテツの巨樹が目につく。

本堂内陣入口に高取藩主源家教筆になる「慈境山」の扁額がかかっている。本尊阿弥陀如来立像の両側に、見真大師、蓮如上人、本如上人画像などが祀られている。見真大師画像と上宮太子画像の裏書に「延宝六曆（一六七八）四月五日、大和国高市郡可留村惣道場福栄寺」と記されていて本願寺寂如上人の花押がある。おそらくこのころ惣道場が福栄寺の寺号を公称するようになったのだろう。それ以前のこととは記録が残っていないから明らかでない。

い。
徳 応 寺 南妙法寺町五一九

浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。寺は聚落の外れの小高い所にあつて眺望がよい。あまり広くない敷地いっぱいには本堂などが建っている。本堂は入母屋造向拝付、本瓦葺の桁行三間、梁行三間の建物で、もと三方に縁があったが、現在正面

だけが縁になっている。本尊阿弥陀如来立像を中心に、見真大師、蓮如上人、七高僧の画像などが祀られている。寺の沿革については、資料や寺伝で大體次のようになっている。

文明の初期に浄土真宗を信仰する村の信徒により創められた寺で、当時は戸数わずか八軒と伝える。初代と思われる住職秀伝が入寺したのは、天文三年（一五三四）年と記録されている。そして延宝元年（一六七三）に徳応寺と公称するようになった。天保三年に本堂、庫裡が再建され、その後昭和五十二年本堂の大修理を経て今日にいたる。

弘 誓 寺 鳥屋町三七六

浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。本堂は入母屋造、妻入正面向拜付三方縁で、桁行三間半、梁行二間半あり、安永七年（一七七八）の建立で昭和五十九年瓦葺替えなどをして現在に及ぶ。庫裡・玄関は新築された。

本尊は阿弥陀如来立像、宮殿造厨子に納められている。宝暦十年（一七六〇）庚辰七月四日釈法如の裏書がある。その他見真大師、文如上人画像は文化七年に下付せられ、聖徳太子、七高僧画像は寛政七年の下付である。仏具に文化十五年銘の六角形釣灯籠と、明和五年銘の喚鐘がある。

寺は明治初年までは道場形式で聞法の内道場であったが、その後惣道場となり、やがて寺号をもつ完全な真宗寺院となった。現在国際的な宗教活動なども行なっている。寺の近くに大きい前方後円墳らしきものがあり、今後重要な研究課題となるだろう。

薬伝寺 鳥屋町一一五六

浄土宗。

五井称名院の末寺として江戸中期ごろに建立したと伝える。堂庫裡であるが、建物が老朽化し、昭和三十年遂に崩壊した。昭和五十四年十一月に再建された。

本尊は阿弥陀如来、像高五〇糎の木造坐像で、観音・勢至の両脇侍がある。什宝に善導大師画像、円光大師画像、

役行者木像、弘法大師坐像、地藏菩薩立像などがある。喚鐘に和州高市郡薬伝寺什物、願主浄入、宝暦六年（一七五六）の銘がある。

高松寺 鳥屋町一二五八

山号は白鳥山、浄土真宗本願寺派。

門は切妻造の四脚門で、極楽門と呼んでいる。本堂は五間に四間の本瓦葺で正面に向拝、建立は安永五年（一七七六）という。他に庫裡、客殿などがある。本尊は阿弥陀如来立像で、その両側に見真大師、蓮如上人、七高僧、聖徳太子、覚如上人、方便法身尊形などの御影像を祀る。

右の内で、見真大師画像すなわち親鸞聖人真影には、宝暦十年（一七六〇）の裏書があって、高松寺が鳥屋村惣道場であったことがわかる。由緒は詳らかでないが、高松寺の寺号を公称するようになったのは、宝暦四年三月



高松寺

二十二日と考えられるが、このことは聖徳太子画像の裏書によって明らかである。

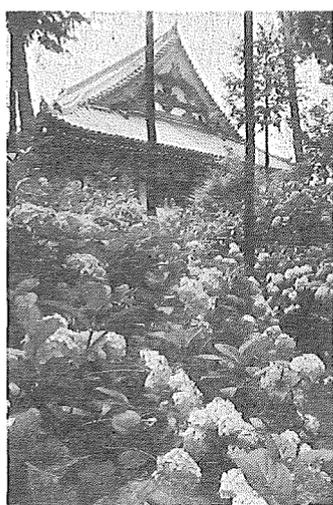
法林寺 西池尻町三〇〇

浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡などがある。本堂は瓦銘をみると寛延三年（一七五〇）とあるが、小規模ながら妻入りの古い惣道場の形態を残す好例である。単層入母屋造本瓦葺で桁行五間半、梁行四間ある。

本尊は阿弥陀如来立像、享保八年（一七三三）四月十二日本願寺より下付。御影像は見真大師画像（天保十一年釈広如の裏書）、本如上人、聖徳太子、七高僧の各画像にも同年の裏書がある。

寺の創立年代は大体本尊下付の享保八年ごろと思われるが、詳しい記録はない。朱塗経机や戦時中供出された金属仏具に宝暦十年の銘がみられたから、そのころに寺観が整えられものとみられる。



久米寺

久米寺 久米町五〇二

靈禅山東塔院久米寺、真言宗御室派、仁和寺別院。

主な建造物は、金堂・多宝塔・観音堂・地藏堂・大師堂・鐘楼・道場・庫裡・荒神堂などがあり、境内には石造七重塔もある。南から入ると「別格本山久米寺」「真言宗根本道場」の門柱が両側に立ち、境内はかなり広く、金堂の背後にはアジサイ園などがあり、また「益田池碑文」を刻んだ大きい石碑が立つ

ている。

金堂は、室町時代ごろの旧堂の古材が一部使われているが、現在の姿になったのは鬼瓦の刻銘に見える寛文三年（一六六三）と考えられる。近年また立派に改装された。正面に寛文五年（一六六五）の大罅口がかかっている。桁行、梁行とも五間あり、正面に一間の向拝がつく。本瓦葺入母屋造の大きい堂である。内陣須弥壇に、本尊丈六の天得薬師瑠璃光如来坐像を中心に、日光・月光像が侍立し、四天王が守護している。別に聖徳太子像と来目皇子像を配している。本尊薬師如来像の胎内仏というごく小さい金銅薬師如来立像が祀ってある。その他阿弥陀如来坐像、勢至菩薩坐像、理源大師、大黒天、不動明王、阿弥陀如来、毘沙門天、久米仙人、三宝荒神など多くの尊像を祀る。なかには如来立像（像高六四・三糎）、十一面観音立像（像高一〇六・三糎）のように平安時代の古像もある。

観音堂は本瓦葺三間四面の堂で、須弥壇に十一面観音立像、弥勒菩薩坐像、阿弥陀如来坐像を祀り、別に三十三所観音を祀っている。本尊十一面観音像は、像高約一〇六糎、一見素地にみえるが、もとは彩色像であった。簡素ながら典雅な像で藤原時代の作とみられる。

大師堂は、宝形造本瓦葺、三間四面の堂で江戸時代初期の建立と考えられる。内陣に弘法大師と善無畏三蔵の両坐像を安置する。とくに善無畏三蔵像は真言八相の中で独立した木彫像として珍しい。像高約七八糎、写実的で大らかな形相に鎌倉末期の作風がうかがわれる。地藏堂は納骨堂になっていて地藏菩薩を祀る。鐘楼は切妻造、袴腰をつけるが、年代は江戸時代中期を降らないと見られる。

多宝塔（重要文化財）は本瓦葺三間の塔で、建立年代は明確ではないが、万治二年（一六五九）に京都仁和寺から移建したと伝える。木造多宝塔の遺存例の少ない折から貴重な建造物である。塔の周辺に巨大な礎石が露出していて、もここに奈良時代建立の七重塔か多宝塔があったという。昭和六十年三月、この塔の礎石群に隣接した地点の発掘調



多宝塔

查が行なわれたが、同塔創建当初のものと推定する飛鳥時代後期様式の瓦が多数出土した。恐らくこの塔は平安時代中期に焼失したものとみられる。

多宝塔は、昭和六十一年五月に現位置に移転された。もともとあった場所は南へ二五米離れた所で、ここは白鳳時代の塔跡が建っていたところで、塔の心礎や礎石が見られるようになった。心礎は花崗岩で長さ四・一五米、幅二・九米あって、心柱の穴は直径九四糎、深さ二〇糎の丸い穴があげられている。

る。

なお、金堂南の広場も続いて発掘調査が行なわれたところ、飛鳥時代後期を遡るかなり大きい建造物の遺構が検出された。これは久米寺創建より古い建物跡ではないかとみられていることは注意すべきことである。

境内にある石造七重塔は、印度・中国・日本の三国伝来の土を以て築いたという伝承がある。石塔は凝灰岩で造立されたもので、総高約二三〇糎、相輪部と七層目は後補である。塔身は高さ四九・五糎、幅六〇糎あり、四方に金剛界四仏の種子を薬研彫りにするが、その手法は古式で、少なくとも平安時代後期ごろの造立と推定される。

久米寺の沿革は、同寺略記によれば大要次のようになっている。

当寺は、推古天皇の勅願、来目皇子の御創立なり。その由来については皇子は聖徳太子の御弟君で、七才の時に眼病を患い両眼とも失明せられた。聖徳太子のお告げによって、薬師如来を祈願せられたが、満願のとき二十五菩薩とともに一寸八分閻浮陀金の薬師瑠璃光如来御降臨になり、皇子の両眼を忽ち平癒せられた。そこで自ら来目皇

子と称せられた。よってこの霊像を祀る伽藍を建立せられ、来目の精舎と名付けられた。その後印度より善無畏三蔵が来朝され、この寺に寄留して多宝大塔を建立、また弘法大師もこの寺に來られた。このような聖地であるから、久米仙人も当山で仏道を修し西方に飛び去ったという。

このように久米寺は来日皇子が推古天皇二年（五九四）に建立したもので、推古天皇の御願になる。さらに久米仙人が建立したという説もある。これは『今昔物語』『扶桑略記』などに記されている。要は今回の考古学的な発掘調査によって、次第にその全貌が明らかになり、今後その創建時期も明らかになってくることであろう。

久米寺にはいろいろな法要や年中行事がある。とくに五月三日の来迎練供養会式には多くの信仰者が参集する。久米仙人を乗せた輿が二十五菩薩の面をかぶった人たちと練り行く情景は正に一幅の絵巻を見るようである。近在の人たちは、この日を「久米れんぞ」と呼んで作業などを休んで団らんにあけくれる。

明善寺 畝傍町八

明善寺

浄土真宗本願寺派。

寺は昭和五十八年ごろに新築された畝傍町集会所の奥室にある。もとは堂庫裡で説教所であった。本尊は阿弥陀如来立像、右手脇壇に聖徳太子と方便法身画像、左脇壇に葉師如来坐像、同立像や毘沙門天、持国天像などを祀る。古い記録がないので沿革は不明である。



大師堂 山本町一四五

高野山真言宗。

本堂・庫裡・座敷などがあり、境内に八十八か所の靈場に因む石仏が立っている。本堂の手前に井戸杵が残っているが、弘法大師石像はこの井戸から掘り出したと伝えている。山本の大師と呼んで近在の尊崇が篤い。境内に井谷の井戸がある。本堂は重層宝形造露盤付で、四方庇正面向拜付という珍しい建造物で、文政四年（一八二二）の建築である。

本尊は小さい弘法大師石坐像で文化四年の銘がある。その他客仏の弘法大師坐像、阿弥陀如来立像二軀、など預り仏である。他にも弘法大師石坐像、不動明王石像などがある。

称讚寺 和田町七八

三王山称讚寺、浄土真宗本願寺派。

大師堂

門・本堂・玄関庫裡などがある。本堂は嘉永四年の再建で、入母屋造向拜付本瓦葺、桁行四間、梁行三間ある。本尊は阿弥陀如来立像、他に見真大師、蓮如上人、広如上人、聖徳太子、七高僧画像などを祀る。画像は明治十六年七月六日に下付されている。

寺は明徳元年（二三九〇）慈敬房が諸国巡礼の途、この地に一字を建立したと伝える。江戸時代には真宗興正派に属したこともあるが、明治九年に本願寺に



所屬するようになり、翌年惣道場を取消し称讚寺が独立した。

鴨公地区

是信寺 醍醐町一九一

醍醐山是信寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡・納屋などがある。本堂は重層入母屋造本瓦葺、桁行五間、梁行五間ある。納屋の上方はもと鼓樓であったか。本尊は阿弥陀如来、他に見真大師画像、聖徳太子画像、七高僧画像、湛如上人画像などを祀る。

沿革は宝暦二年（一七五二）五月九日創立という。

（養国寺） 醍醐町一九九

浄土宗鎮西派知恩院末。

門には「養国寺」の扁額があがっている。境内正面に薬師堂がある。これに接するように春日神社がある。薬師堂の前方に役行者堂と地藏堂がある。薬師堂は桁行二間半、梁行二間半、宝形造本瓦葺で、本尊は厨子入薬師如来、両脇壇に十二神将が侍立する。その他弘法大師、役行者の小像などを祀る。もと本堂に本尊阿弥陀如来像と観音・勢至両菩薩が侍立していた。寺の沿革は宝暦元年（一七五二）、長州の人観誉玄察上人がここに居住し、同五年薬師堂を改築して瓦葺とした。文政七年住僧忍成上人が建てた庫裡もあった。現在古い建造物は、山門と薬師堂だけになってしまった。



是 信 寺



養 国 寺

正 光 寺 繩手町一二九

藤光山正光寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・新しい庫裡などがある。本尊は阿弥陀如来、本堂は重層入母屋造妻入本瓦葺で、桁行二間半、梁行四間半ある。御影像は見真大師画像（天保十二年三月十三日本願寺広如宗主裏書）、慧灯大師画像（同上裏書）、聖徳太子画像（宝暦二年三月三十一日本願寺法如宗主裏書）、七高僧画像、本如宗主画像などを祀る。由緒沿革は明らかでない。境内に寛永二十年（一六四三）の供養碑などがある。

（正 明 寺） 繩手町一三二

真言宗。



善 行 寺

現在は廃寺になっているが、本堂（桁行二間、梁行二間）が残っていて、前方のものと寺地は、児童遊園地になっている。堂前の扁額に「室生山八十八ヶ所第五十一番霊場」とある。本尊は大日如来坐像、他に弘法大師、阿弥陀如来などを祀る。

なお正明寺の西方にかなり広い寺域をもつ「西正寺」があったが、廃寺となり、その本尊は地藏菩薩であったが、正明寺に安置されたという。

善 行 寺 飛驒町五四

天香山善行寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡・客殿・御堂・鐘楼・鼓楼（下は茶所）などが整っている。

本堂は入母屋造二重庇向拝付、本瓦葺で三面廻廊、桁行七間、梁行七間の立派な本堂で、安政四年ごろ本堂改築に着手し文久元年五月十三日に上棟した。安政七年の棟札がある。本尊は阿弥陀如来、宮殿造三面開きの厨子に祀られている。見真大師画像は寛延三年三月二十三日本願寺法如宗主の裏書がある。恵灯大師画像には寛政元年三月二十八日、聖徳太子画像は元文三年三月二十五日、七高祖画像も同日下付の裏書がある。その他歴代上人の御影像がある。御絵伝は釈文如の裏書があり、箱書に「寛政六甲寅年閏霜月十九日、取頭兵部卿、本照寺門徒大和国高市郡飛驒村惣道場善行寺」とある。

寺の沿革については、寺伝では二百数十年前、道場が建てられ後に善行寺と公称するようになったという。元文三年（一七三八）以降順次御影像が下付されている。

観音寺 別所町七三

慈眼山悲田院と号する。浄土宗鎮西派知恩院末。

寄棟造正面庇、縁付本瓦葺、別に単層切妻造の庫裡がある。本尊十一面観音、他に釈迦如来坐像、地藏菩薩、阿弥
陀如来などを祀る。この寺の草創などは明らかでないが、享保六年（一七二一）の鉦や宝暦四年の喚鐘などがある。喚
鐘に第八世海巡とあるからかなり古い寺であると考えられる。

常願寺 高殿町一三六

秀泉山甘露院常願寺、真宗興正派。

境内に秀泉があつて古くから甘露水に恵まれているので、山院号をかきい
う。本尊・庫裡・客殿・門がある。本堂は桁行四間、梁行五間半、入母屋造
向拝付三方縁になっている。

本尊阿弥陀如来立像は宮殿造三面開きの厨子に祀られている。見真大師画
像、七高僧画像、聖徳太子画像、本寂上人と源海上人画像などを祀る。寺伝
によると、常願寺は初め浄願寺といい、貞永元年親鸞上人が高弟源海上人に
創建せしめられた寺という。その後、永禄元年興正寺十六世証秀上人が来錫
された。慶長年中、高殿の大火に罹り、寺も烏有に帰した。そのことは、現
在残っている黒塗の前机に願末を記している。「慶長四年三月二十三日当高



常願寺

殿之庄火災之節淨願寺共焼災此時持出品ハ此机ト香炉ト計ニ付永ク記念トセリ、住職睦天六十□。その後、慶長十七年、香久山村南山淨福寺住職が役僧を遣わせて法務を執らせていたが、明治九年二月二日この淨福寺から分離して興正寺本山直末となった。

常 樂 寺 高殿町一三八

南面山常樂寺、曹洞宗永平寺末。



常 樂 寺

本堂は重層入母屋造本瓦葺、庫裡が続いている。

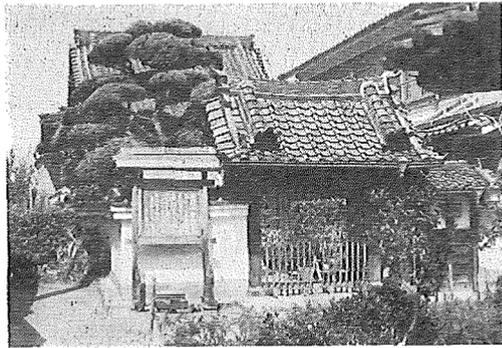
本尊毘沙門天、他に觀世音菩薩、大日如来、弘法大師、釈迦如来、達磨大師坐像などを祀る。創立年代は明らかでないが、鰐口に「和州高市郡高殿村毘沙門堂常樂寺、延宝六戊午年正月吉日」と刻まれているから、延宝六年（一六七八）以前であると考えられる。

報 恩 寺 高殿町二三五

日向山と号する。浄土真宗本願寺派。

本堂・庫裡などがある。本尊阿弥陀如来、宮殿造金箔厨子に祀る。他に見真大師、蓮如上人、聖徳太子、七高僧画像を始め、開基阿弥陀如来画像、湛如宗主画像などを祀る。

この寺の沿革は明らかでない。本堂は、西吉野村の祐光寺から約十年かか



報恩寺

って明治三十五年五月に移築上棟した。祐光寺は下市町本善寺の隠居寺といわれるだけあって本堂内陣の欄間彫刻やその周辺の金を盛り重ねた竜や極彩色の文様はすばらしい。

地藏寺 法花寺町一〇五

竹義山地蔵寺、法善寺ともいう。浄土宗鎮西派知恩院末。

門・本堂・庫裡などがある。本堂は重層寄棟造本瓦葺、桁行五間、梁行五間あり。本尊は阿弥陀如来、観世音・勢至両菩薩が侍立する。向って右脇壇に地藏菩薩、左脇壇に長谷形式の十一面観音を祀る。寺室に二十五菩薩画像、涅槃画像などがある。地藏菩薩立像は、高さ三二樞あまりの小像ながら藤原時代の作とみられる。なお宗祖大師・善導大師の両大師画像には裏書があり「二祖之真影建立、弘化三丙午年晩夏、法花寺里、地藏堂什物、照空観

山謹図」とある。

八木地区

大願寺 小房町五一―一三

大原山大願寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・玄関庫裡などがある。門を入ると、すぐ左に五輪塔がある。一部混成であるが、地輪部に永正六年（一五〇九）の刻銘がある。本堂は入母屋造本瓦葺、桁行梁行ともに四間半、享保元年（一七一六）の棟札がある。その後再興せられ現在にいたる。本尊は阿弥陀如来立像、享保元年本山より下付。その他見真大師画像（安政七年）下付、恵灯大師（大正五年）、聖徳太子（文政四年）、本如上人（安政七年）、七高僧画像などを祀る。別に方便法身画像は本願寺第十二世准如上人から開基仏として下付された画像がある。

由緒沿革は明らかでないが、寛永元年ごろに設けられた草庵が今日の基礎を築いたものであろう。

観音寺 小房町六一二二

無量山観音寺、高野山真言宗。

小房積の観音といい、多くの人々の信仰を集めている。門・鐘楼・諸仏堂・三宝荒神堂・恵比須社・大師堂などの多くの建造物があり、その奥正面に本堂があり、背後に庫裡・玄関客殿・茶室などがある。

本堂は六間四面の大きい堂で、昭和二十八年に再建された。本尊は十一面観音、かつて比叡山北谷の観音院本尊を慶安三年（一六五〇）四月にこの小房の寺に遷座されたという。堂内には不動明王、毘沙門天、四天王、釈迦如来、文殊・普賢両菩薩、大黒天、弁財天、阿弥陀如来、薬師如来など多数を祀っている。

寺にはこの他、木造増長天立像（平安時代後期）、木造役行者および両鬼像



観音寺



延命院

(室町時代天文四年、六年在銘)や木造三宝荒神坐像(寛永二十年在銘)の貴重な仏像がある。宝物中にも古い五鈷、錫杖、念珠など注目すべきものがある。仏像や仏具の中には、排仏毀釈の際に多武峯の妙楽寺関係の物がかなり多く含まれている。なかには江戸時代在銘の物もあるので、資料的には興味が深い。

寺の草創については明らかでないが、もとはささやかな観音堂から今日の盛観を築いたものであろう。境内は四季の花が咲き、連日多くの参詣者を迎えている。

延命院 八木町二丁目三一四〇

補陀洛山延命院、真言宗豊山派。

門・本堂・庫裡・鐘楼がある。春日神社の東に隣接している。本堂は重層四注造本瓦葺で桁行四間、梁行三間あり、文政四年十月の再建である。本尊は十一面観音で、開運毘沙門天、福寿観世音、厄除不動明王などを祀る。十一面観音は松材一木造素地彫眼の立像で、高さ一一・八・四樞ある。かなり後補があるが、平安後期十二世紀の古像である。天部立像も素地彫眼でやはり平安後期の作と考えられるが、本尊よりは少し古いようである。

寺の沿革については、天平時代に遡るといすが、境内から春日神社にかけて古瓦が出土し、古い礎石があつてかなり大きい寺であつたと考えられる。これが旧八木寺の一部であるという見方もある。仏具や石灯籠にも「補陀洛山八

木寺延命院」と刻まれたものがある。この辺りから敵傍駅南にかけての寺跡の究明によって今後の研究の進展を期待する。また長谷寺との関係や本尊十一面観音についてもなお研究を要する問題が少なくない。

国分寺 八木町二丁目六一一五

勝満山満法院国分寺、浄土宗。

門・本堂・収蔵庫・鐘楼・玄関客殿・庫裡などがある。門前に「大和国分寺」の石標が立っている。本堂は寄棟造

本瓦葺で、桁行五間、梁行六間ある。棟札によると宝暦十一年（一七六一）の建立であるが、一部に江戸初期の古材を残していて、当初は規模が幾分小さかったようである。柱石に天平時代の円座のある礎石が転用されている。

本尊は阿弥陀如来坐像、観音・勢至両菩薩坐像が両側に配されている。霊験あらたかな如来で多くの信仰を集めている。他に善導大師・円光大師像などが祀られている。また本堂背後の収蔵庫には、重要文化財指定の木造十一面観音像などがある。この観音像は像高一七七・五釐あり、樺材で像の大部分は殆ど丸彫になっている。平安時代十一世紀の作とみられている。

扁額に「国分寺」とあり、高取城主植村家教公の筆になる。藩主植村出羽守家敬公は、元禄九年その祖、家貞家言の位牌を当寺に納めたが、当寺の復興に代々力を尽くしている。

国分寺の由来については、当寺を天平時代に設けられた大和国分寺とし、



国分寺

付近に国分尼寺の法華寺があり、互に堂塔伽藍を競っていたと伝称されている。このことについては関係の文献によって種々論議考証されてきた。沿革の詳しい経緯は未だ不明な点がある。

西 福 寺 八木町二丁目六一―二四

花香山西福寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡座敷などがある。本堂は延享二年（一七四五）火災にかかった。本尊および見真大師画像は無事搬出し現在も祀られている。現本堂は寛延元年（一七四八）に上棟再建された。この時、円照寺宮から本堂瓦の御寄附があったが、その事を記した御紋章入りの掛札が残っている。本堂は入母屋造、桁行六間、梁行五間半、向拝付本瓦葺の大きい堂である。鬼瓦に延享五年七月吉日の刻銘がある。

本尊は阿弥陀如来像で、向って右に見真大師と脇壇に本如上人の画像を祀る。見真大師画像には次の裏書がある。

釈 准 如（花押）

和朝親鸞聖人御影 慶長十年^乙八月卅日

和州高市郡八木村

西福寺常什物也

願主 釈正誓

本尊左に、専灯大師を祀る。これには文化十二年（一八一五）の裏書、湛如上人画像は寛延三年（一七五〇）の裏書がある。

宝物に本願寺実如上人下付の六字名号軸がある。したがって室町時代末ごろには既に真宗寺院の初期形態が存したと考えられる。

金台寺 八木町二丁目七—三〇

蓮休山金台寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・経蔵・玄関客殿・庫裡などがある。本堂は、入母屋造本瓦葺で桁行・梁行とも四間で正面に向拝がある。客殿・庫裡は立派に新築された。月例の仏教講座が開催され信仰家の関心を集めている。

本尊は木造阿弥陀如来立像で、両脇に見真大師と恵灯大師の御影像を祀る。その他七高僧画像、明如上人画像などがある。開基了妙の厨子入坐像が祀られている。了妙については、『蓮如上人御一代聞書』に「蓮如上人仰せられ候、堺の日向屋は三十万貫を持ちたれども死にたるが仏にはなり候まじ。大和の了妙はかたひら一つをも着かね候へども、此度仏になるべきよと仰せられ候由に候」と記されている。

先年、吉野町飯貝の本善寺所蔵文書の中から、天保十五年の金台寺の縁起写が発見された。これによって金台寺と了妙のことについて大体知ることができる。それによると、金台寺は昔は「蔵の道場」と呼んだ。蓮如上人が大和御巡錫の折、酒蔵の中に一人住んでいる老婆を見て仏恩に浴するよう名号を記してなぐさめられた。そして了妙尼という法名を賜わった。了妙は余生を仏道に入り、明応七年（一四九八）五月五日に往生した。蔵の道場には、蓮如上人から下付された仏像や御杖と鉄鉢が伝えられた。その後宝暦三年六月廿二日に、蔵の道場を改め、金台寺の寺号が許され、今日にいたっていると。境内に、安政六年に建立された開基了妙の大きい供養塔がある。了妙の坐像や遺髪が寺に祀られている。

八木大師教会 八木町三丁目五―二〇

真言宗豊山派。

小堂内に石造弘法大師像を祀る。もとは八木大師堂といい、単立であったが、昭和六十二年に宗教法人規則の一部改正があつて頭書の名称となり、真言宗豊山派に属することになった。

護法寺 南八木町一丁目四―一四

経王山護法寺、日蓮宗。

門・本堂・庫裡・鐘楼・納屋がある。境内に石造宝塔水子地藏がある。寺は大正末期に道場として発足、現在住職は三代目である。本堂、門などは昭和十年の建物である。本尊は妙法宗の本師釈迦牟尼仏、高祖日蓮大菩薩、三世十方一切諸仏世尊菩薩等を祀る。

(正福寺) 北八木町一丁目二―二九

廃寺。恵比須神社境内にあるが、寺門・薬師堂・旧庫裡が残っていて、もとは寺院が主体であったと考えられる。

薬師堂は、二間四面の宝形造で、前面に向拝がついている。屋上の瓦露盤の正面に「正福寺」と刻まれている。石灯笼に、「享保十六年辛亥（一七三二）九月吉日、和州北八木村正福寺」と刻まれている。鰐口に「奉寄進 和州十市郡北

八木村中 元禄五壬申年（一六九二）九月吉祥日 正福寺専求代」の刻銘がある。

本尊は、薬師如来坐像であるが、現在は向って右脇壇に祀られていて、傍らに厨子入の小さい不動明王像がある。

薬師如来像は高さ五〇糎の古像で薬壺がなくなっている。この薬師は古くから産婦らの信仰が厚く、堂内には多くの小絵馬が奉納されていて、乳を表わした婦女が描かれたものが多い。

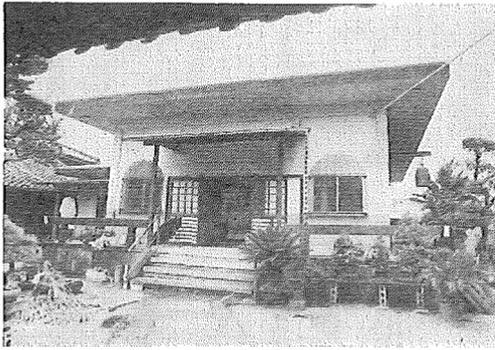
現在の本尊は、木造漆箔の阿弥陀如来坐像で、高さ五〇・五糎、彫眼の定印像で、豊かな肉付きの柔かい衣文の線の流れは美しい。藤原時代の作である。左の脇壇に、弘法大師坐像と厨子入の小さい役行者像がある。弘法大師の信仰は、今も大師講の人たちによって続けられている。大師像は江戸時代初期の作とみられる。

庫裡は、現在社務所にもなっているが、庭には古い石造宝篋印塔の基礎や五輪塔の地輪などが残っている。

円立寺 北八木町一丁目二―三一

蓮生山円立寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡・客殿・墓地などがある。本堂は昭和四十六年四月二十六日出火して全焼してしまった。早速復興され、同四十八年一月に棟上、鉄骨の新しい堂となった。本堂は正面五間、側面七間の大きい堂である。本尊阿弥陀如来立像は火災の際、辛うじて持出された。しかし御影像などはすっかり新しくなった。親鸞聖人、蓮如上人、聖徳太子、七高僧画像は、画家によって描かれたものである。焼失した見真大師画像には、正徳三年（一七二三）の裏書があった。恵灯大師は弘化三年（一八四六）、七高僧と聖徳太子画像には正徳三年の裏書があった。焼失した本堂は、単層入母屋造で、桁行六間半、梁行五間で、正面に大きい向拝がついていた。この堂は、棟札によれば元禄



円立寺

十一年（二六九八）六月二日に再興されたもので、その後、安政六年（二八五九）に屋根替と天井張替があり、同時に表門の屋根修理も行なわれた。

円立寺の詳しい沿革は明らかでないが、昔は天台宗の寺であったが、文明年間蓮如上人大和巡錫の時、真宗に改宗したと伝える。境内には、鎌倉時代から室町時代末にわたる石造物の残欠がある。

明教寺 北八木町二丁目四―三七

都原山明教寺、真宗興正派。

門・本堂・鼓楼・客殿・庫裡などがある。本堂は入母屋造妻入、正面向拜付、本瓦葺で梁行四間半、桁行五間ある。元文二年（一七三七）の再建で、もとの本堂は元禄二年に建立された。本尊は阿弥陀如来、他に親鸞聖人、七高僧、聖徳太子、本寂上人画像を祀る。内仏に古い阿弥陀如来立像がある。この尊像には、「慈覚大師作、殊勝被為拜之間大切安置可有之候也、六雄山寺務法雅誌（印）」の文書がある。像は京都神楽岡真如堂の本尊に納めた香中出現の小像を拡大して刻まれたものという。

本尊の木仏尊形は寛文四年御下付の文書もあるが、他に近世文書がいくらか残っている。什物に宝暦九年の六角釣灯籠や喚鐘があったが、供出されてしまった。

明教寺は、武蔵国住人鈴木政盛が本願寺覚如上人に帰依して入道し、当地に移り住み康安元年（一三六一）に一字を建立して明教寺と号したと伝えている。

諦聴寺 内膳町二丁目三一―一六

真宗興正派。

鐘樓門・本堂・庫裡がある。鐘樓門は昭和四十六年の建立、本堂は正面五間、向拝付三方縁になっている。本尊は阿弥陀如来立像、高さ三七・五糎ある。見真大師・蓮如上人などの御影画像を祀る。

この寺はもとは、内垣内にあったが、水害などのため昭和十年前後に移ってきた。今井の順明寺の道場であったという。

今井地区

西光寺 今井町一丁目八一―一三

寿命山無量院西光寺、浄土宗。

門・鐘樓・本堂・地藏堂・客殿・庫裡などがある。本堂は単層入母屋造、六間半四面、正面向拝付本瓦葺である。宝形造の地藏堂には石造地藏菩薩を祀り納骨堂になっている。

本尊は阿弥陀如来坐像で両脇に観音・勢至両菩薩坐像を配する。他に地藏菩薩半跏像、善導大師・円光大師の両祖師像を始め、十一面千手観音、三十三所観音、日限り地藏立像、聖徳太子坐像など多くの尊像がある。什宝に享保十四年の由来書がある。観経曼荼羅図、釈迦三尊図、七高僧像、源空上人筆六字名号掛幅などがある。

本堂は、今井小学校前身校舎として文明舎が明治七年に発足したが、その当時の明治五年開校願書が寺に残っている。

西光寺の詳細な沿革は明らかでないが、当初は天台宗であったのを、天正年間応蒼上人によって浄土宗に転宗、上

人を中興開山としている。その後焼失したが、現本堂は文化二年頃の再建、庫裡は棟札によると弘化二年に着工、十
八代量誉上人によって完成された。鐘楼は元禄三年の造立、当時の鐘はない。

蓮 妙 寺 今井町一丁目九一八

慧生山蓮明寺、日蓮宗。

門・本堂・妙見堂・鐘楼・庫裡がある。本堂は入母屋造、正面向拝付、本尊は三宝、すなわち題目宝塔を中央に、
右に多宝如来、左に釈迦如来を祀る。妙見堂は開運殿ともいい、妙見大菩薩
立像、三十番神、鬼子母大善神を祀っている。鐘楼には梵鐘がない。供出さ
れた梵鐘は享保十七年（一七三二）四月の造立で、冶工は南都住沼津因幡藤原
久重である。

蓮妙寺は元弘三年妙実上人の開基で、その後堂宇の焼失やいろいろの変遷
を経て現在にいたるといだが、詳しいことはわからない。

称 念 寺 今井町三丁目二一二九

今井山称念寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・鼓楼・鐘楼・玄関・客殿・別客殿・庫裡がある。「明治天皇駐
蹕之処」と刻まれた石標が立っている。今井町は称念寺を中心に本願寺門徒
の寺内町として発達したもので、寺は今井御坊と呼ばれている。



蓮 妙 寺

本堂は入母屋造、向拝付本瓦葺で、内部は外陣を広くしている。江戸時代初期の建立でかなり後世の修理を経ている。しかし細部には桃山時代に遡ると考えられる所もある。庫裡、客殿（書院）、玄関は江戸時代中期の建立であるが、別客殿（奥書院）はこれらよりやや古いようである。明治天皇は明治十年に畝傍御陵に御親拝のみぎり、称念寺が行在所となり、別客殿に二泊三日御滞在になった。

本尊は阿弥陀如来立像、木造漆箔玉眼入りで像高七八・六糎、室町時代前期十四世紀の作である。御影像にはそれぞれ古い裏書があつて貴重な資料である。恵灯大師画像は改装の際もとの裏書の部分が貼付されていて寺の来歴を知ることができる。「文明六年^{甲午}八月十二日釈蓮如（花押）、江州坂田西郡長沢福田寺常住也、願主釈頓乗」と記されていて、江州福田寺から移された画像で、このことは今井氏系譜にも見える。見真大師、聖徳太子、高僧画像には、それぞれ慶長五年（一六〇〇）釈准如上人から称念寺に下付された裏書がある。顕如上人画像は慶長十一年、准如上人画像は寛永十四年に下付されている。続いて歴代上人画像が多く下付され現在にいたる。宝物には、慶長五年下付の親鸞聖人絵縁起四幅、蓮如上人筆と伝える六字名号などがある。

称念寺の草創については、今井氏系譜に詳しく記されているが、通史で概説されるからここでは簡略に記す。開基は今井兵部富綱で、父宗綱とともに一向宗に帰依し、本願寺の対信長合戦のとき、先住の近江国河瀬荘より石山に移住し、その後顕如上人の命をうけて高市郡今井荘に移住し、ここに一字を建立して称念寺と号した。その後、興福寺衆徒によって焼き払われたり、迫害を受けたが、本願寺の支援もあつて、道場を再建し、これが今日の称念寺に発展したものである。

（常 福 寺） 今井町三丁目六一四六

春日神社の境内にあり、門・観音堂・行者堂・絵馬堂が残存している。廃寺であるが、観音講や行者講の人たちの信仰に支えられている。境内に天明八年（一七八八）の法華経一字一石書写を納めた経塚もある。

門は棟門で神社の入口になっているが、もとは今井町西入口の門であったのを移したもので、今西家の旗印が刻まれている。鬼瓦に明和九年（一七七二）の陰刻銘がある。

本堂は観音堂といい、単層四注造本瓦葺で、正面と両側面に濡れ縁がついている。この堂には古い棟札が残っていて、慶長十八年（一六一三）に建られたことがわかる。棟札は、長さ一三五糎、幅一〇・八糎あって表面に次の墨書がある。

梵^ナ 上棟大和国高市郡今井常福寺于時慶長^{七月}拾^{十八}八年^癸丑^敬

なお、堂の鬼瓦に寛永十四年（一六三七）二月、安永九年（一七八〇）の刻銘があり、鰐口に「奉寄進十一面観世音御宝前鰐口、元禄四^未年（一七九二）九月十八日、施主今井中沢氏云々」の陰刻銘がある。したがってこうした紀年は、慶長十八年以降の修理の時期を考える手がかりとなる。堂は文化八年（一八一二）にも修理されているが、建物の本体はよく当初の姿をとどめているといえよう。昭和五十二年二月に樫原市の文化財に指定された。

内陣須弥壇中央に、本尊十一面観音立像が安置されている。像は松材寄木造、素地玉眼入で像高九五・八糎ある。作技などからみて室町時代、宿院仏師系の作と考えられる。本尊の両脇には江戸時代の三十三所観音が配されている。

行者堂は、桁行二間半、梁行二間の入母屋造で、鬼瓦に文化四年（一八〇七）の刻銘がみえる。内陣中央に、役行者像と前鬼後鬼の侍像がある。脇壇に、聖宝理源大師像や不動明王、地藏菩薩立像が祀られている。卷子本法華経七卷が安置されているが、虫害で十分開けることができなくなっている。

絵馬堂には、江戸時代末から現在まで大小絵馬が約二百枚もかかっている。文政八年の大絵馬もある。常福寺の沿革は明らかでないが、もとは天台宗の寺で多武峯の妙楽寺末で、かなりの寺領もあったが、明治維新の排仏毀釈の際、廃寺となり、春日神社が中心で今日にいたる。

順明寺 今井町四丁目一一一四

天灯山順明寺、浄土真宗本願寺派。



順明寺

門・本堂・玄関客殿・庫裡・鐘楼・墓地がある。今井北御堂と呼ばれている。門や客殿は江戸時代初期を降らぬものである。本堂は入母屋造本瓦葺で縁をめぐらす。江戸初期の建立で、後世かなりの修補を経ている。

本尊は阿弥陀如来立像、木造漆箔玉眼入りで像高七四・二厘ある。室町時代前期十四世紀の作であろう。五劫思惟阿弥陀坐像、親鸞聖人木像がある。御影像は見真大師(寛政三年下付)、慧灯大師(弘化三年)、准如上人(寛永十五年)、文如上人(文政十一年)、本如上人(弘化三年)の画像を祀る。宝物に北条時頼所持と伝える扇子一面、竜虎硯一面や祖師御筆になる六字名号、縁起書一卷などがある。本堂後方にある墓地に、室町時代初期の石造宝篋印塔二基があるが塔身部、相輪の一部を欠いている。

順明寺は昭意房源海法印順明和尚の創立と伝え、もと十市郡新賀庄にあったものを寛永三年(一六二六)に現地に移した。旧寺地には順明寺の小字名を

残している。開基順明は俗姓を多田源八郎仲貞といい、若くして親鸞聖人に帰依し、昭意房源海の法名を賜わったという。寺は江戸時代の中ごろから一時衰退したが、第十四世隆元は延宝八年伊賀国から入寺し堂宇を復興した。明治二十四年十一月八日、英照皇太后が敵傍御陵等に行啓のみぎり、この寺に御滞泊になった。当時の御座所は今日なお伝えられている。

正蓮寺 小綱町一三一―一六

成等山正蓮寺、真宗興正派。

門・本堂・客殿庫裡・大日堂などがある。

門は本瓦葺の棟門で、鬼瓦に元禄九年（二六九六）の刻銘がある。他の寺から移したという。本堂は桁行五間、梁行四間、向拝付の建築物で昭和十三年に再興された。

本尊阿弥陀如来立像で康雲作、向って右に親鸞聖人画像、聖徳太子画像と御内仏の木造阿弥陀如来立像を祀り、左方に七高僧画像をかかっている。この中で、太子および七高僧画像には、寛延四年（二七五二）に下付されたものである。正蓮寺はもと曲川町徳応寺末であったが、明治七、八年ごろに独立して興正寺の直末となった。本堂のすぐ北に麁寺の普賢寺大日堂と門が残っているので、これを併合して現在にいたる。

大日堂（重要文化財）は、寄棟造本瓦葺三間四面、四方縁になっている。内部は前方一間を礼堂とし、後方二間の内陣に中央やや後方より厨子がある。厨子は正面棧唐戸両開きの扉をつけ、他の三方は板壁になっている。この扉は元禄五年（二六九二）に補加したもので、本来は開放であった。建物自体は簡素なものであるが、落ちついた風格のある堂である。建立は文明十年（一四七八）で、次の棟札が残っている。

梵^ゴ
上棟

一切日皆善
諸仏皆威徳
以斯誠実言
願我成吉祥

一切宿皆賢
羅漢皆斯漏
願我成吉祥

小綱普賢寺

密善道金
六郎善道
孫太郎藤
藤太郎藤
源二郎源
源二郎藤
源二郎藤
源二郎藤

時之大王
文明十年戊
六月十二日
当住観秀
敬
白

本尊大日如来(重要文化財)は桧材、寄木造漆箔の坐像で、高さ一四八・二糎ある。彫眼で細目に刻み出した俯瞰相であるが、円満な顔は魅力的である。衣文の流れも柔らかで藤原時代の作を思わせる。鎌倉時代初期の優れた作である。なお、本尊に侍立する持国天と多聞天立像は、高さ一七三糎あり、いずれも藤原時代の作と推定する。他に円光

大師、弘法大師坐像などがある。

(普賢寺) 小綱町三三五

普賢寺(正蓮寺) 大日堂



入鹿神社の傍らに、普賢寺の大日堂と門がある。普賢寺は、仏起山普賢寺といひ、高野山真言宗に属し、本尊は大日如来であった。おそらく寺が主で、神社はその境内社であろう。明治二年の「小綱村宗門人別御改帳」中に、普賢寺留主居、慧珠と記されている。その後、廃寺となり、近くの正蓮寺に併合された。本堂は文明十年(一四七八)の建立で、本尊大日如来像とともに重要文化財に指定されている。

真菅地区

慈明寺 慈明寺町三八〇

雲飛山慈明寺、曹洞宗。

本堂・地藏堂・庫院・客殿・納屋・天神社。

本堂は宝形造、二間半四面に向拝付本瓦葺。本尊は十一面観音で、高さ一二六糎ある。像は桧材、寄木造、素地、玉眼入の立像で、左手に水瓶を持ち、右手に念珠と錫杖を執る長谷寺形式の像である。この像の底部に文亀二年（一五〇二）の墨書銘があり、椿井大仏師法橋舜慶の作である。他に古い延命半跏地藏像、不動明王、達磨大師像などがある。

慈明寺は畝傍山の山ふところにいだかれた静かな禅寺で、『大和志』を始め地誌類には、この辺りに多くの坊院があったことを記している。慈明寺氏に關係の深い寺で、元亨三年（一三三三）慈明寺左門の建立とも伝える。その後兵火に罹り次第に衰微し、現在は一つの堂を残すのみとなった。もとは真言宗の寺であったが、元禄年間河内法雲寺より盤山和尚が入寺して黄檗宗となり、昭和になってから曹洞宗に属するようになった。

願興寺 寺田町一六二

浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。

本堂は単層入母屋造鉾葺、桁行四間、梁行二間、正面向拝付。本尊阿弥陀如来立像、高さ三八糎。宝物に六字名号

の掛軸がある。

寺の沿革については記録がないので明らかでない。約二百年前の建立と伝える。

称名院 五井町一六

正行山願成寺称名院、浄土宗。

門・本堂・庫裡客殿・納骨堂・墓地がある。

門・本堂は、昭和五十九年三月に新築落慶した鉄筋の立派な堂である。二階造りで、一階部分は駐車場など、二階が本堂になっている。本堂は七間四面に三方縁付の広い堂である。旧本堂は入母屋造、桁行七間、梁行六間半、正面向拝付本瓦葺で、享保六年（一七二一）の再興で、当時の棟札や刻銘のある鬼瓦が保存されている。

本尊は阿弥陀三尊立像で、両脇壇に善導大師と円光大師の坐像を祀る。その他享保年間造立の木造彩色地藏菩薩立像がある。なお、この寺にとって大切な尊像と思われる厨子入十一面千手観音立像がある。像高九三糎、素地の像で、顔の表現は円満で、衣紋の流れは力強く細やかで、鎌倉末期の作と伝える。

庫裡は切妻造、桁行十一間、梁行四間半の本瓦葺の堂々たる建築で、旧本堂とほぼ同じころの造立と考えられる。しかし奥の座敷の部分は、寛政ごろの建築である。玄関の両側に、この辺りの寺では珍しい籠形窓がある。

寺蔵の古い丸瓦に「永享八年タツノトシ、卯月十一日（花押）□サン、八千」と刻まれている。かつて硯に転用された形跡がある。永享八年（一四三六）は室町時代初期であるが、この瓦はどここの寺のものか、称名院の前身の堂の瓦か、何も伝えられていない。

称名院はかなり古い来歴をもつ寺であるが、文書などは少なく明らかにすることはできない。昔から浄土宗であっ

たと考えられるが、当初は他宗の寺であった可能性もある。今井町の両替屋として名をはせた牧村氏関係の位牌や徳川幕府旗本として著名な神保長三郎氏の位牌などが祀られていることをみても、非常に有力な寺であったことがわかる。

称名院の中興は、乗蓮社大誉上人で弘治元年（一五五五）に遷化している。

光 専 寺 曾我町一七二一

紫雲山太子院光専寺、真宗興正派。

門・本堂・庫裡・客殿があり、墓地もある。本堂は、本来六間四面に三方雨縁、向拝付であったが、現在は両側雨縁を取り入れて内部はずいぶん大きい建物になっている。屋根は本瓦葺で、鬼瓦に寛延二年（一七四九）の陰刻が見える。内部は深い欄間彫刻があり、内陣周囲には極彩色の文様が目をひく。須弥壇の金具裏に宝暦十年（一七六〇）の墨書銘がある。

本尊阿弥陀如来立像を中心に、向って右に見真大師、聖徳太子画像を祀り、左に本常上人、七高僧画像など祀っている。なお秘仏に聖徳太子の塑像と別に釈迦誕生仏がある。この寺の入口に大正七年建立の石柱があるが、正面に「聖徳皇太子御自作尊像奉安処」と刻まれていて、この辺りの寺院はいずれも太子ゆかりの寺であると伝えている。宝物に親鸞聖人御真筆という六字番号軸および阿弥陀如来面軸がある。



光 専 寺

縁起によると、この付近は聖徳太子ゆかりの地であつて大楽寺と呼ぶ大伽藍があつた。この大楽寺の四至に南泉寺、東楽寺、西養寺、北長寺があつた。光専寺の前身はこの南泉寺である。真宗になつたのは、明応元年（一四九二）のころで、当時南泉寺の住僧円知が興正寺の蓮秀上人に面謁し、感激して求法の道を修めることになつた。南泉寺を改めて光専寺と称するにいたつたと伝える。明治五年ごろは全末寺九ヶ寺、立会末寺八ヶ寺、計十七ヶ寺に及び、大和國中本山を称するようになった。真宗以後、現住は十五代という。

光 岩 院 曾我町五一九

樹松山長福寺光岩院といい、浄土宗に属する。

建造物は表門・本堂・庫裡・書院・鐘楼があり、本堂の背後に忌部、曲川、曾我、雲梯の共同墓地がある。昭和二十七年に本堂、庫裡は全焼し、その後新しい堂が完成した。本尊は阿弥陀如来坐像。焼失したもとの本尊は、永正十五年（一五一八）の作であつた。

表門と鐘楼は焼失を免がれたが、鐘楼は安永七年（一七七八）の造立、その後何回かの修理を経て今日にいたる。梵鐘は戦時中に供出されたが、高さ一一二糎、宝曆十一年（一七六一）鑄造の鐘であつた。境内に高さ二六〇糎の巨大な五輪塔がある。いろいろ古い伝承があるが、石塔は無銘であるからの確にはわからない。

寺の沿革については、曾我に因んで蘇我氏が東楽寺・西楽寺・南楽寺・北楽寺を創建したといひ、その西楽寺の後身が光岩院と伝えている。もとは真言宗であつたが、慶安二年（一六四九）長曾我部宮内少輔元親の末子がこの寺に住し浄土宗に改めたという。墓地に天正十四年（一五八六）の背光五輪塔碑や小形の五輪塔などがある。

東 楽 寺 曾我町五四八

朝樋山東楽寺、黄檗宗。

表門・本堂・庫裡などがあり、現在は講の人たちで管理している。寺はもと現真菅小学校の所にあったが、いつのころか現在地に移転した。この地はもと曾我四伽藍の一つであった西養寺（最要寺）があったので、実際上は二寺が併合したものである。したがって仏像なども両寺のものが祀られている。

本堂は入母屋造妻入りで、三間四面に三方縁がついている。中央後部に本尊地藏菩薩半跏像を祀り、その前方に禅宗関係の諸尊を祀る。すなわち題目塔を中心に両尊四士を配し、前に日蓮聖人、文殊・普賢両菩薩など法華経に説く多くの諸尊を祀り、四天王像が守護する。これら一群の像は、最要寺の分とみられる。堂前に立つ弘化四年（一八四七）の南無妙法蓮華経の碑の側面に祈願所最要寺、大原氏と刻まれている。

本尊の向って左壇に厨子入聖徳太子像（市指定文化財）を安置する。像は高さ六七・八厘の南無仏太子像で、下半身に法袴を着用する。着衣は彩色、玉眼入りの優れた像で鎌倉時代後期の作である。別に千手観音像があるが、破損が甚だしい。これは東楽寺の仏像という。

表門は本瓦葺、小門のついた二脚門で、鬼瓦に文政九年（一八二六）の刻銘がある。建築は部材からみて更に古いものである。

大 信 寺 地黄町四五四

五明山大信寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。本堂は入母屋造、二間半四面、正面向拜付本瓦葺で、寛政六年（一七九四）に再建されたもので、寺に残る棟札に詳しく記している。寛政九年、安政五年の鬼瓦銘が見える。

本堂内陣は本尊阿弥陀如来立像を中心に、両側に親鸞聖人、蓮如上人、鏡如上人の画像が祀られている。他に聖徳太子、七高僧などの絹本画像がある。木仏および寺号下付についての文書がある。それによると、安永五年（一七七六）四月十三日に地黄村惣道場に大信寺の寺号が許され、同時に称念寺と順明寺の両寺立会で釈法如より木仏尊像が下付されている。

もと地黄観音堂に茶所があった。ここで使用されていた鉄湯釜が、寺の外陣に保管されている。安政五年（一八五八）の陽鑄銘があるから茶所の年代もよくわかる資料となる。なお、観音堂茶所の建物はその後大信寺に移されて庫裡になっていた。

（地黄観音堂） 地黄町一〇七

聚落の南、地黄池の北岸に瓦葺の小さい観音堂がある。維新までは茶所もあってかなりの信仰を集めていた。付近には大きい桜樹があり、南正面に畝傍山、西に二上山を望む景勝の地であった。いまも堂の礎石が残っており、桜樹の名残りも見られる。その後、次第にすたれて、茶所の湯釜（安政五年）は大信寺に保管されている。本尊観世音菩薩は、高さ三・九厘の小さい金銅仏で、箱形厨子に入っているが、これもそのまま大信寺にある。もとの建物は大信寺の庫裡になったというが、その面影は残らない。

地黄池畔に残る小堂には、木造寶頭びんずら盧尊者の坐像が、当時の盛観を偲ぶようにひっそり祀られている。

安楽寺 北妙法寺町一七三

真宗興正派。

昔は専念寺末の道場であった。門・本堂・庫裡がある。この寺はもと近くの同町一八三番地にあったが、昭和十五年ごろに現地に移された。

本堂は、入母屋造桁行三間半、梁行二間、正面向拜付本瓦葺の建物で、内陣には本尊阿弥陀如来立像、向って右に親鸞聖人画像、左に本寂上人画像を祀る。本尊は、嘉永二年（一八四九）二月十三日に下付されたもので、その書状が寺に保存されている。昭和五十五年五月十二日に門主が御巡化になった。

専念寺 土橋町四八五

護国山福満院専念寺、真宗興正派。

門・本堂・鐘楼・鼓楼・庫裡・客殿などがあり、墓地もある。

専念寺

本堂は入母屋造七間四方本瓦葺で、寛永十九年（一六四二）の建立という。

本尊阿弥陀如来立像、向って右に正面向きの見真大師画像、七高僧と聖徳太子画像を祈り、別に厨子入の像高五三纏の木造聖徳太子立像を安置する。左壇には前住本寂上人らの画像を祀る。宝物中に蓮如上人筆の六字名号などがある。鑿の周囲に享保十四年（一七二九）六月十九日、施主伊与堂新屋敷門徒



中と陰刻銘がある。

専念寺の沿革は、もと真言宗の寺院であったが兵火に罹り焼失した。その後村の中央に移して再建された。真宗になつたのは、親鸞聖人の立教開宗のとき同聖人の教化をうけ、専学房教念の法名を賜わり当寺第一世の住職となる。その後寛永十五年に寺を現在の場所に移し堂舎を建立した。現住は第二十六世という。

(大 日 堂) 土橋町五〇二



大 日 堂

春日神社の北に、大日堂がある。ここはもと福満寺のあった所である。大日堂は桁行二間半、梁行二間、向拝付の宝形造本瓦葺で、昭和四十年に修理された。堂の後方に庫裡があつたが、現在は会所になつてゐる。

本尊は木造大日如来坐像で、両側に不動明王立像と弘法大師坐像を祀る。真言宗の寺と考えられる。古い鰐口が保存されている。裏面の半分は欠損している。「高市郡土橋村、正徳三(一七一三)癸巳年九月日」の陰刻銘がある。

また総高四〇糎、口径二七・五糎の喚鐘には、大日堂の名が刻まれていて、享保十二年(一七二七)のかすかな陰刻銘がある。

(春道観音堂) 土橋町五三七

土橋町の氏神春日神社は聚落の中心にあるが、さらに北の方の畑地の中に山崎氏ゆかりの春日神社がある。その北に境内を接して春道観音堂がある。

堂は切妻造二間四面の瓦葺で、本尊は寄木造彩色の観音立像である。手の部分が欠損しているが、恐らく長谷寺形の十一面観音であろう。向って左脇壇に、高さ一二六・五糎の素地の破損仏がある。幸にして、物入れに腕や手の部分なども保存されているので、一応復原して考えることができる。四天王像の一躰と考えられ、時代は平安時代後期の作とみる。

観音堂が春道と呼ばれるわけは明らかにされないが、春日神社の鉄湯釜の銘に「張道」と刻まれている。天保九年（一八三八）ごろは、張道と呼んだことがわかり、道を墾いたことに起因すると考えられる。

願成寺 小槻町五四三

浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。本堂は入母屋造妻入、桁行三間、梁行三間、棧瓦葺で、内陣に本尊阿弥陀如来立像、向って右側に七高僧、見真大師、聖徳太子の尊影、左側に広如上人、蓮如上人の御影像を祀る。その他かなり古い方便法身像をかかげるが、これがいわゆる開基仏で、もと道場であったものが寺号公称が許されたのはこの時であったと考えられる。裏書が見当らないのははっきりした年代はわからないが、江戸中期ごろではなからうか。

浄行寺 小槻町五九三一

国実山浄行寺、真宗大谷派。

門・本堂・鐘楼・庫裡・書院などがある。元の本堂と庫裡は、明治四十年三月焼失し、鐘楼だけが残った。棟札によれば、直ちに復興に着手してその年に上棟したようである。現本堂は入母屋造四間半四面、正面向拝付、本瓦葺に

なっている。本尊阿弥陀如来立像を中心に、向って右に見真大師、左に蓮如上人、七高僧、聖徳太子の画像を祀る。別に古式の阿弥陀如来立像があるが、もと寺の内仏であった。

寺の沿革は記録が焼失したので明らかでないが、もとは真言宗であった。本堂前に鎌倉時代後期の大きい石造宝篋印塔が一基ある。恐らく近在の墓地から移したものであるう。

(大 日 堂) 小槻町五八三

もと春日神社境内にあって、神宮寺であつたらしいが、明治四十年三月に隣接の浄行寺火災の際、大日堂も焼失してしまつた。昭和九年に少し位置を変えて新しい堂が建築された。宝形造二間四面に正面向拝付棧瓦葺で、内陣に本尊大日如来、両側に弘法大師と不動明王がそれぞれ厨子入で安置されている。大日堂は、浄行寺がかつて真言宗であつたところに設けられていたものではないか。堂の前方に、昭和九年二月寄進の織部形石灯籠が一基立っている。

正 福 寺 中曾司町七四六

恵日山正福寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡などがある。門は切妻造桁行二間本瓦葺で、昭和六十年に屋根替えがあつた。本堂は五間四面向拝付本瓦葺で、昭和五十五年に東正面



正 福 寺

の屋根替えが行なわれた。鬼瓦に明和三年（一七六六）の刻銘がある。昭和四十八年に庫裡・客殿が立派に新築されて、境内の面目は一新した。別に鼓楼があったが、台風で倒壊してしまった。

本尊は阿弥陀如来立像、向って右に見真大師と明和上人画像を祀る。左手に蓮如上人と聖徳太子、七高僧画像を祀る。画像の裏書は見当らない。立派な前机が寄進されている。

正福寺の沿革については明らかでないが、『本願寺史料集成』中に、寛政七年（一七九五）二月十三日の書翰に、「中曾司村惣道場正福寺」の名が見えるが、さらに古い史料は見当らない。

（善光寺堂） 中曾司町五二一

磐余山神護院、旧真言宗。

磐余神社の神宮寺であったと考えられるが、現在は鐘楼と善光寺堂だけが残っている。庫裡のあった所に、新しい公民館が建設された。堂は二間半四方に正面に小さい縁がついている。本尊は石造善光如来で、高さ八〇糎、幅四二糎、花崗岩舟形に善光寺形式の三尊立像を半肉に陽刻する。鎌倉時代末のすぐれた石仏で、大和では珍しい存在である。本尊の向って右に厨子入木造聖徳太子立像で、高さ約一二〇糎の十六才の彩色像である。左方に厨子入不動明王坐像と弘法大師坐像を祀る。石仏も以前は厨子内に祀られていたが、厨子が破損したので、現在は石仏だけが立っている。紙本涅槃像が保存されているが、裏書に文化四年（一八〇七）、磐余山神護院当住戒覚代、施主中曾司村惣兵衛とある。梵鐘は戦時中供出されて鐘楼だけが残っている。梵鐘は、享保十二年（一七二七）の铸造で、やはり磐余山神護院の銘があった。

最勝寺 飯高町二八六

恵心山最勝寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。門前に昭和二十七年蓮如上人四五〇回忌に建立された「恵心僧都御旧跡」と刻んだ石柱が立っている。また境内に自然石の大きい「中興之碑」があつて、背面に初代、二代、三代住職の名が刻まれている。

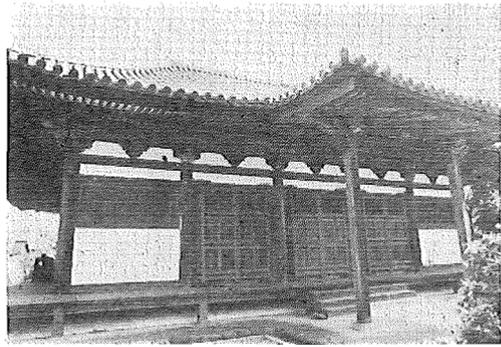
この辺は、櫃原市に編入される以前は磯城郡で、その前は十市郡であつた。喚鐘に「和州十市郡飯高邑、最勝寺 什」と陽鑄で表わされている。

本堂は、桁行三間、梁行四間、妻入り正面向拜付である。本尊阿弥陀如来立像を中心に、向うに右に親鸞聖人、聖徳太子、七高僧の画像、左に蓮如上人と明如上人の画像を祀る。聖徳太子と七高僧画像の裏書に、明和六年（二七六九）釈法如の名が見える。別に方便法身尊形の絹本の小掛軸がある。これにも旧裏書があるが、文字の墨色が薄れて年号は読めないが、釈良如の名が記されているから、寛文（一六六一―一六七二）ごろと推察される。これが寺の創立を考える一つの資料となる。

瑞花院 飯高町三七一

祐禪山瑞花院吉楽寺、浄土宗。

表門・本堂・鐘楼・客殿・庫裡・墓地などがある。本堂（重要文化財）は桁行五間、梁行五間、寄棟本瓦葺で、嘉吉三年（一四四三）の棟木墨書銘がある。しかし修理の機会に確認されたことは、前身建物の部材がいくらか転用されていることがわかつた。その後、寛文五年（一六六五）以降再三の大修理を経て現在にいたる。屋根瓦に、嘉吉元年、永



瑞花院

享十三年などのへら書があるもの四十五枚あり、なかには戯画もあって瑞花院の瓦は有名になった。

浄土宗の寺院であるから、内陣に阿弥陀如来立像、観音・勢至両脇侍立像が侍立して阿弥陀三尊が本尊になっている。向って右に善導大師、左に法然上人の塑像を祀る。宝物に仏画地獄絵図十一幅、山越えの弥陀、涅槃図、来迎図などがある。

本堂の復原平面からみると、本来は密教系本堂の形式である。もと真言宗の寺院であった伝承を裏付けている。寺伝では、吉楽寺は興福寺衆徒飯高氏の菩提寺といわれる。飯高氏は興福寺の衆徒十六人衆に挙げられている名門であった。『大乘院寺社雑事記』には飯高氏の活躍がうかがわれる記事がある。飯高氏の居館は寺の北方台地「城山」にあったという。

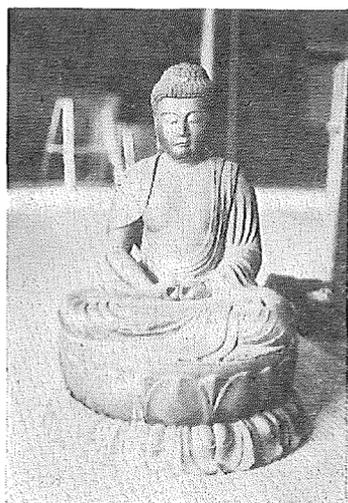
吉楽寺がいつごろ浄土宗に転宗したか、明らかでないが、同寺に保存する寛文五年の修理棟札によって、大体このころに転宗したようでこの修理によって浄土宗系の本堂に改造された。昭和二十五年の大修理によって、本堂は当初の姿に復元された。同時に境内が整備されて、庫裡、書院なども面目を一新した。

墓地もその後に整備された。文明十五年（一四八三）、大永三年（一五二三）在銘の五輪塔地輪など多数検出され、寺史の参考資料となるものであった。

(雲分寺) 飯高町一七〇

飯高共同墓地に、もと「うんぶん寺」とか「くまけ寺」と呼ぶ墓寺があった。墓地の小字名も「うんぶん寺」となっている。あまり大きい寺とは考えられない。近くの在家に伝える阿弥陀如来坐像がその本尊ではないかと思われる。像は高さ四五糎、松材寄木造の坐像で、衣文の一部にもとの金箔が見える。豊かな面相で、衣文の流れも力強く刻まれている。鎌倉時代末期の作か。この墓地にあった鎌倉時代末の宝篋印塔や室町時代の古碑が現存することからみて、飯高墓地やこの墓地はかなり古い来歴をもつものと考えられる。

親縁寺 大垣町二九二



雲分寺阿弥陀如来像

浄土宗。門と墓地が残っていて、本堂などは昭和四十八年に新築され、大垣町公民館となる。庫裡もこの建物の中にあるので、堂庫裡と公民館が相互活用されている。仏堂の内陣に、本尊阿弥陀三尊立像を中心に両側に塑像の善導大師と法然上人の坐像を祀る。その他阿弥陀如来や弘法大師像などが安置されている。十五畳敷の外陣がある。墓地に、天正十四年(一五八六)の阿弥陀如来立像と六字名号碑がある。他に慶長十一年(一六〇六)と同十二年の石仏碑などがある。

金橋地区

光明寺 東坊城町七六六

高照山光明寺、浄土真宗本願寺派。

本堂は入母屋造棧瓦葺、桁行四間、梁行三間、向拝付三方に雨縁をめぐらす。庫裡は昭和五十一年九月に二階建の新しい建物となった。本堂は棟札によると、文政十一年の再建で大正四年に修覆されたことがわかる。

本尊は阿弥陀如来立像、他に見真大師、本如上人、七高僧の画像などを祀る。寺の由緒は明らかでないが、喚鐘に宝暦二年（一七五二）の銘がある。石塔残欠のなかに、長享二年（一四八八）の地輪が目につく。

（庵 寺） 東坊城町七九六

本堂は堂庫裡になっていて入母屋造、桁行四間半、梁行二間あり、現在はいきれいに改装されて「川端会所」になっている。もとは浄土宗で本尊は阿弥陀如来立像、他に石地藏、弘法大師像がある。宝物に二十五菩薩来迎図がある。箱に享保九年（一七二四）八月二十五日などの墨書がある。とくに本尊阿弥陀如来は、像高約六九糎、平安時代後期の作でかなり修補されているが、桧の一本材で刻みあげたすぐれた仏像である。

浄栄寺 東坊城町八二二

宝泉山浄栄寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・客殿・庫裡がある。本堂は桁行三間半、梁行二間に三方雨縁になっている。庫裡も当初のまままで古びて

いる。本尊は阿弥陀如来立像、見真大師、聖徳太子、七高僧画像などを祀る。本如上人画像には天保十四年の本山下付の裏書がある。

寺の由緒はわからないが、金春靈誓所で地頭から慶応年間まで毎年米一石の奉納があった。

(大 日 堂) 東坊城町八五六

大日堂は「ほうらんや」行事が行なわれることで知られる八幡神社境内、本殿に向かって左手にある。本堂は宝形造二間半四面、三方雨縁正面向拜付の堂で、天保十三年に再興された棟札がある。堂の基礎に五輪塔の地輪などが使われている。本来は真言宗の寺で八幡神社で管理していたようである。本尊は木造大日如来坐像で、高さ六五糎、なかなかよい仏像である。他に弘法大師像、不動明王像などを安置する。宝物に弘法大師、毘沙門天などの画像がある。釣灯籠に正徳二年(一七二二)、喚鐘に文化十年(一八一三)の銘がある。

金 剛 寺 東坊城町八七一

紫雲山金剛寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡・納屋がある。本堂は入母屋造本瓦葺で、桁行三間半、梁行三間ある。本尊は阿弥陀如来立像、康雲の作。見真大師、蓮如上人、本如上人、聖徳太子、七高僧画像を祀る。

寺は旗本藤堂家の菩提所で、現に延宝二年(一六七四)をはじめ多くの位牌が安置されている。寺号は享保六年(一七二二)十二月に許可されているから大体その頃に寺の形態を備えたのであろう。元文三年(一七三八)銘の喚鐘がある。

正覚寺 東坊城町九四〇

金華山正覚寺、浄土真言本願寺派。

門・本堂・玄関客殿・鐘楼・鼓楼・庫裡などがある。庭前に近くから移した「左こんごう山道」の道標や室町時代の混成した五輪塔がある。

本堂は五間四面、正面向拜付、三方雨縁、屋根は本瓦葺の立派な堂で江戸時代末の建造物である。門はやや遅く、天保十四年に竣工しているが、昭和六十一年に修復された。庫裡は新築され寺観が整った。本尊阿弥陀如来立像、康雲作。他に見真大師、蓮如上人、阿弥陀如来画像(享保四年)、七高僧(文久三年)、見真大師(文久三年)などを祀る。

寺の創建は明らかでないが、もとは曾我町光専寺、御所市櫛羅専念寺の末寺で惣道場であったが、明治十一年に完全独立した。寺号および本尊下付は享保七年(一七二二)という。

(葉師堂) 曲川町九四

宝形造本瓦葺の堂と続いて庫裡がある。堂は二間四面に正面向拜付、雨縁がついている。庫裡は明治二十六年の再建。本尊は薬師如来坐像、両側に阿弥陀如来立像と弘法大師像を祀る。由緒沿革は明らかでないが、徳応寺の末寺であった。右の木造阿弥陀如来立像は像高三六・七糎、平安時代後期の作とみられている。

(地藏堂) 曲川町七六八

門・堂・庫裡がある。門の鬼瓦に宝曆七年(一七五七)のへら書が見える。本堂は二間四面、正面向拜付本瓦葺で、

宝曆ごろの建物とみられる。本尊は扉内にある石造地藏像で、秘仏になっているので、前立の地藏石仏が立っている。本尊は下方部分しか残らないが、巨大な花崗岩の台石を後方から見るができる。堂内には厨子入の阿弥陀如来坐像が祀られているが、像高五四種の小像ながらよくまとまった安定感のある仏像で、平安時代後期の作と考えられている。もとは徳応寺の末寺であった。

徳 応 寺 曲川町一六六

一向原山三尊院徳応寺、浄土真宗本願寺派。

山門・鐘楼・太鼓楼・本堂・庫裡・客殿・法物蔵・墓地がある。本堂は入母屋造六間四面向拜付、三方に一間の雨縁がある。本堂は寛延元年（一七四八）に再建された。本尊阿弥陀如来立像は康雲作。向って右に見真大師画像を祀り、善光寺如来御身替りの三尊石仏や聖徳太子像などを安置し、右脇に同寺歴代住職の尊影の画像三幅がある。本尊の向って左に蓮如上人、法然上人両画像をはじめ、七高僧像を安置する。前方に木造親鸞聖人坐像を祀る。これは貞永元年（一二三三）御自作の像と伝えている。鐘楼、鼓楼は文政元年（一八一八）の再建、庫裡は昭和五十四年に新築された。

境内に昭和五十一年に親鸞聖人の立派な銅像が建立された。古い五輪塔や宝篋印塔の各部が散在するが、なかには天文九年（一五四〇）、永祿九年（一五六六）銘の五輪塔地輪がある。宝物には、十字名号、開基仏画像などがあるが、文書のなかに「石山本願寺合戦和睦章」がある。これは天正八年（一五八〇）三月二十日、大和国徳皇寺松村源重郎の書で、末尾に「為形見袈裟遣候」とあって、徳応寺はかつて徳皇寺と記されていたことがわかる。

徳応寺の沿革について、同寺に残る縁起によれば大略次のようである。

曲川の地は、伝えるところによると、信濃国の善光寺如来が当初に安置された向原寺の跡といい、聖徳太子はここに向原山三尊院聖徳皇寺を創建された。その後、佐竹右衛門之尉源末兼が、親鸞聖人の直弟子となり、貞永元年（二二三）聖人が常陸国より御帰洛の途、追隨して曲川に來た。ここは兄の知行所であったので、聖徳皇寺を再興して念仏の道場とした。蓮如上人も文明十九年（一四八七）この寺に來化され名号を賜わり、その直弟子となつた。上人は延徳元年（一四八九）に再度留錫された。

縁起の記すところは、なかなか古いことで確実に把握することはできないが、曲川町の八幡神社付近に大きい伽藍があったと伝えている。大日堂や釈迦堂などゆかりの伝承があり、古瓦も出土するという。

西 応 寺 雲梯町五八五

普照山西応寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂と二階建の新しい庫裡がある。本堂は大正十年九月の暴風雨で倒壊、その後再興されて現在に至る。本尊は阿弥陀如来立像、他に見真大師、恵灯大師、七高僧、聖徳太子、寂如上人などの画像を祀る。

寺は大永二年（一五二二）二月、釈善正の建立といい、もとは真言宗であったが、善正の時真宗に転宗、寛政年間に現地に移転、本堂を建立したという。延享二年（一七四五）の喚鐘が本堂外縁上につるされている。

浄 念 寺 新堂町九〇

光輪山浄念寺、浄土真宗本願寺派。

本堂は入母屋造向拝付本瓦葺で、桁行四間、梁行三間あり、天保九年の造建になる。もと鼓樓の位置に玄関庫裡が

ある。近年本堂の横に大きい二階建ができた。

本尊は阿弥陀如来立像、他に享保七年（一七三二）一月に本山から下付された見真大師、七高僧、聖徳太子、良如上人画像などを祀る。宝物に天和三年（一六八三）の箱裏書がある御文章箱がある。

寺はもと浄土寺という真言の寺で、大字の南五町の所にあった。天正年間に現地に移転し、蓮如上人に帰依して浄土真宗となった。

法光寺 古川町二三四

浄土真宗本願寺派。

寺庭はかなり狭い。本堂は桁行四間、梁行二間で、新しく改築された。本堂前方に庫裡客間がある。

本尊は阿弥陀如来立像、康雲の作。他に見真大師、本如上人、聖徳太子、七高僧の画像を祀る。

由緒沿革は不明であるが、釣灯籠に宝暦四年（一七五四）九月六日の銘が刻まれている。

（観音堂） 忌部町二〇五

忌部町公民館の横に、観音堂と庫裡がある。堂は二間四面寄棟造で、正面は向拝付で雨縁がついている。堂の前に一對の石灯籠がある。本尊は観世音菩薩立像で一米あまりある。像は一面四臂の不空縹索観音像で、かなり修復がみられるが平安時代後期の作で、この地方としては珍しい存在である。他に地藏菩薩、役行者、弘法大師などを祀る。寺の由緒沿革は明らかでないが、前身はかなり古い寺であったと考えられる。

正満寺 忌部町二五〇

法剣山正満寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。本堂は入母屋造妻入で本瓦葺の古い建物であるが、庫裡は改築されて二階建の新しいものとなった。

本尊は阿弥陀如来立像で、見真大師、恵灯大師、聖徳太子、本如上人、七高僧画像などがある。寺は古くから惣道場と呼ばれていたが、宝暦十三年（一七六三）六月に正満寺の寺号が許可された。本尊はその時に下付されたものであろう。

新沢地区

浄満寺 川西町四二〇

浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡。本堂は桁行三間、梁行三間、庫裡は改築された。本尊阿弥陀如来立像、裏書に「本願寺十七代法如宗主、延享二年（一七四五）乙丑八月十二日」とある。由緒は明らかでないが、寺伝によると延享元年三月求道法師の開基、興正寺末東坊の末寺であったが、慶応二年二月東坊を離れて直末となった。明治八年三月興正寺を離れて本願寺末となり現在にいたる。見真大師画像は明治十五年に下付、広如上人、聖徳太子、七高僧画像は明治十一年に下付されている。仏具の盤に「宝暦十年辰八月日、川西村浄満寺什物、施主当村橋本氏」と刻まれている。

円福寺 川西町四二六

天満山成就院円福寺、浄土宗智恩院末。

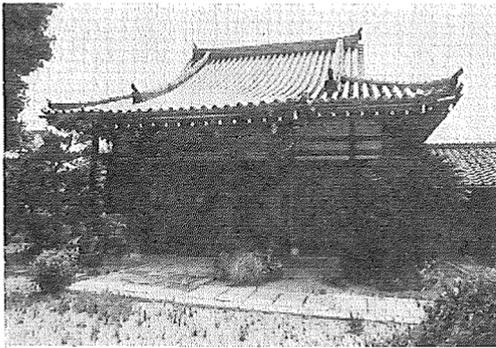
門・本堂・玄関庫裡などがある。本堂は入母屋造向拝付本瓦葺で、桁行・梁行とも四間半ある。庫裡は桁行七間、梁行三間あり、本堂との間に桁行二間半の玄関がある。庫裡に接してもと川西の重願寺観音堂の建物がある。

本尊は阿弥陀如来坐像で、観音・勢至両脇侍が立ち、阿弥陀三尊になっている。本尊は肉身部は金泥、衣部は漆箔で、玉眼が入っている。いずれも後の修理時のものである。像内に宝曆十一年（一七六一）の修理銘が朱書されている。像高五二糎、定印の阿弥陀像で、ふくよかな面相に、豊かな体軀、柔かい衣文の流れなどに藤原時代の様相が見られるが、おそらく同時代末期の作であろう。

本尊の両側に、善導大師と円光大師の立像を祀り、向って左脇壇に観音像と地藏菩薩像を安置する。右に厨子入阿弥陀如来坐像と地藏菩薩、弘法大師像などがある。

庫裡内仏に、阿弥陀如来立像がある。像高七〇糎、漆箔の来迎像であるが、本来は素地と見られている。頭部は螺髪を刻まず、体軀はやや扁平で、衣文の刻みも浅く藤原時代末の作とみられた。

伏鉦に正徳五年（一七一五）、饒鉢に安政二年（一八五五）の刻銘があつて、いずれも川西村円福寺什物となっている。喚鐘に天和元年（一六八二）の銘が



円福寺

みられたから、これ以前の創立であったことがわかる。玄関庫裡は明治二十九年の改築である。

仏 覚 寺 川西町八一三

所得山仏覚寺、日蓮正宗。

門・本堂・庫裡・客殿があり広い駐車場がある。新しくできた寺院だけあって、いずれも現代的な鉄骨建築である。本堂は中央に日蓮正宗の本尊曼荼羅を祀り、内陣は四〇畳敷の広さのある立派な設営である。

(重 願 寺) 川西町四一〇

現在発電所の辺りに、元禄十四年(一七〇二)に創立された寺があった。本堂は三間四面で阿弥陀如来を祀っていた。他に観音堂があって観世音菩薩立像を祀っていた。近年重願寺は廃寺となり、観音堂は本尊聖観音像とともに近くの円福寺に移されたが、現存している。なお本堂にあった丈六阿弥陀仏は、大和高田市の常光寺に移され、ここに現存する。

(長 法 寺) 一町二二〇四

天満山長法寺、真言宗、廃寺。

表門・鐘楼・本堂・観音堂・地藏堂・茶所・石造層塔などがある。本堂は重層部寄棟造、本瓦葺で桁行五間、梁行三間半、一間の三方縁欄干付の建造物で、外欄間に極彩色の彫刻がはま



重願寺聖観音菩薩像



寺 法 長

っている。鬼瓦に慶安五年（一六五二）と宝永四年（一七〇七）の刻銘がある。本堂内部にも彫刻の欄間がある。外陣に掲げられた絵馬には、正徳四年（一七一四）の境内図、元禄九年（一六九六）の金剛力士像や富士巻狩など立派な大絵馬額がある。

本尊は、寄木造素地彫眼の大日如来坐像で、像高八六糎、智拳印を結ぶ。像底に次の墨書があって、室町時代末の作であることがわかる。

阿闍梨権大僧都頼秀

天文十一年壬寅九月吉日

大和劬高市郡常門長宝寺本尊藤□

施主権少僧都定郁白道音

権大僧都清範 弘尊

盛秀

弘範

本尊は、地方では「じょうどの大日さん」と親しんでいる。平素は閉扉されていて、扉の表面に見事な彫刻がある。両脇に不動明王と降三世明王の立像を祀る。向って左脇壇に阿弥陀如来坐像などを安置する。中央の像は鎌倉時代の様相を示している。他に平安時代後期の薬師如来坐像がある。右脇壇には弘法大師像などが安置されている。

観音堂は方二間、裳階付宝形造で、かなり破損がひどいので、昭和六十年に新しく再建された。下層の内陣部分は古材を活用している。露盤に、宝暦十三年（一七六三）の刻銘があるが、建築年代はもう少し古いようである。本尊

は、聖観音立像を中心に三十三所霊場の観音像を祀る。

地藏堂は、方一間余、入母屋造妻入で内陣仏壇に木造彩色の地藏菩薩立像を中心に、周辺および両側に千体仏を祀る。地藏像の台座裏に「享保十二末（一七二七）七月廿三日、細工大仏師中西刑部庄右衛門」の墨書がある。なお千体仏の後ろに古い千体仏があって、千体仏は二重になっている。堂内両側板壁に地獄極楽の絵が描かれている。

鐘楼は切妻造、方一間の吹放しで、江戸時代初期の造立とみられる。梵鐘には延宝九年（一六八一）の刻銘があり、高市郡常門村天満山長法寺の名が刻まれている。

本堂前方に、古い四角形の一基の石灯籠がある。かつて重要美術品等の認定をうけた。宝珠と火袋は後補、中台と基礎四方にそれぞれ二区の格狭間が刻まれている。方柱の一面に「正和五年」（一三一六）とはっきりした陰刻銘がある。しかしよく調べると、紀年の上方に文字のかすかな痕跡があり、さらに紀年の下に三行にわたって文字らしき痕跡がある。月日については「四月日」ともみえるが、はっきりしない。また一部の記載にある「施入於長法寺」の文字は確認できないが、これについては更に調査する必要がある。



長法寺十三重石塔

境内に三神社がある。拝殿の後方に石造層塔がある。現在八層であるが当初は十三重石塔であろう。軸部四方に雄こんな筆法で金剛界四仏の種子を陰刻する。凝灰石製で高さ約三六〇厘、相輪部は失われている。鎌倉時代前期の造立と考えられる。ところが昭和五十四年にこの塔の解体修理が行なわれ、塔内から金銅製の押出仏と銅造の円形御正躰が検出された。押出

仏は、中尊に倚像の如来像を表わし、両側に脇侍菩薩像、上方に天蓋と双樹を表わしている。埴仏にも時折見かける図柄で、奈良時代前期と見られる。円形の御正躰には地藏菩薩像らしい陰刻があり、平安時代後期の作と考えられる。こうした貴重なものが石造十三重塔造立に当り、塔内に納められたものであるが、損傷もなくよく原形をとどめていることは、郷土の仏教史を考える上で大切な資料となるものである。

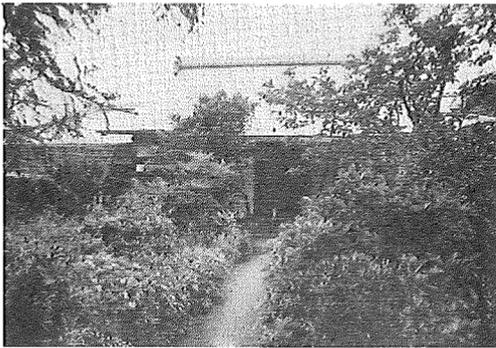
長法寺の沿革は明らかでないが、古老の伝には、菅原道真が吉野宮滝に來遊の途上、素性法師の案内でこの地に立寄り山莊を構えたというが、明らかな史実とは考えられない。境内の東南は樹木繁茂する山林になっていて境内にも巨樹が茂り一面に美しい緑に包まれている。現在、浄土宗の浄国寺があつて、廢長法寺の諸堂をはじめ境内の管理をしている。

浄国寺 一町一二〇四

報土山得生院浄国寺、浄土宗。

本堂は入母屋造、庫裡と一体の建物で、桁行九間半、梁行六間の長い建物で、明日香村橋寺の僧堂を明治十九年に移し、同二十年八月竣工した。当初は松皮葺であったが、現在は亜鉛板葺に改められた。浄国寺は明治十八年以前は曾我川の西にあった。西常門の北垣内三九四番地にあたる。

本尊は阿弥陀如来坐像で、高さ一〇六糎の大きい像である。両脇に善導大師と円光大師の祖師坐像を安置する。右脇壇は納骨や位牌壇になっている。喚鐘や仏具に寛文十年（一六七〇）、元禄十七年（一七〇四）、宝永六年（一七〇



浄国寺

九)などの刻銘が見えるから、創立年代や変遷を示す資料となる。現在の浄国寺は、庵長法寺の境内にあるから合わせて境内の管理にあっている。

念 仏 寺 一町一三四二

光明山撰取院念仏寺、浄土宗。

一町には浄土宗の寺が二か寺ある。浄国寺を西の寺、念仏寺を中の寺と呼んでいる。浄土宗鎮西派知恩院末の寺で、表門・本堂・庫裡・奥座敷がある。本堂は全部新しく建築されて面目一新した。旧堂は桁行三間半、梁行三間、向拝付であったが、古くなり狭いのですっかり改築された。桁行・梁行とも五間あり正面に向拝付、本瓦葺の立派な建物である。

本尊は宮殿厨子に納められた阿弥陀如来坐像でかなり古い像である。向って右脇壇に善導大師坐像、左に円光大師坐像を祀り、両端は納骨壇と位牌壇になっている。

念仏寺の沿革は、記録がないので明らかでないが、寺では境内にある元文五年の僧了専の石塔が第七世であるから、草創はかなり古いと伝えている。もとは五井の称名寺の末寺であった。

宝物に、三千仏画像三幅、涅槃画像一幅などがある。涅槃像に、天明七年(一七八七)の裏書がある。

浄 念 寺 一町八八

萩向山浄念寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。本堂は、入母屋造向拝付本瓦葺の桁行三間半、梁行四間の堂で前縁がついている。庫裡は

桁行六間、梁行二間ある。境内の片隅に、小石仏、五輪塔残欠などが並べられている。

本尊は、阿弥陀如来立像で、足柄に「康雲拜見」と記されている。本尊の向って右に、親鸞聖人と七高僧画像を祀り、左手に蓮如上人画像をかかげ、御内仏の阿弥陀如来像などを祀る。

本堂建築は、宝永八年（一七二一）七月で、寺号および木仏下付は、元文三年（一七三八）十月となっている。その他詳しいことはわからない。

浄宗寺 北越智町二〇九

貝吹山浄宗寺、真宗興正派。

門・本堂・庫裡などがある。本堂は五間に五間で、正面に向拝がつく。庫裡は昭和四十四年暮に改築が竣工してすっかり美しくなった。本堂は天保五年三月の再建という。仏像を安置する内陣は菊と桐の絵天井になっている。

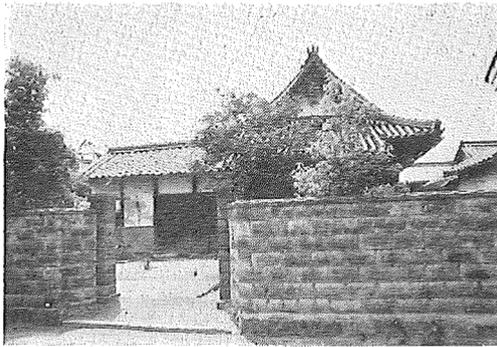
本尊阿弥陀如来立像を中心に、宗祖見真大師（裏書宝永七年）、良如上人（宝永三年）、聖徳太子（宝永三年）、七高僧画像などが祀られている。宝物に蓮如上人筆の名号、寂如上人御判の和讃（貞享二年）をはじめ、「浄宗寺縁起」「越智古老伝」などがある。宝暦八年（一七五八）の縁起を摘録すると、大徳建武のころ吉田丹後守という人が高市郡壱万貫の領主であった。楠氏一系の人で、足利軍が吉野に入らんとしたとき、丹後守の弟数馬が越智氏とともに貝吹山に拠って防戦したが、利あらず一族は殆ど戦死してしまった。そこで数馬は



浄宗寺

忠士の菩提を弔らわんとして一字を建立したのが浄宗寺の開創としている。寺に伝わる文書には、明暦二年（一六五六）に良如上人裏書の木仏尊形が下付せられてから、その変遷や郡山光慶寺との関係などを記した明暦二年から元禄十六年（一七〇三）にいたる記録が残されていて、単に同寺の変遷を知る資料であるばかりでなく、今井順明寺や称念寺など近在の寺院が多数見えるから、当地の宗教史を考える上でもよい資料となる。

阿弥陀寺 観音寺町三一〇



阿 弥 陀 寺

浄土宗、御所市玉手満願寺末。

本堂・庫裡がある。本堂は桁行三間半、梁行三間に向拝付本瓦葺で、明治三十二年に改築された。庫裡は、桁行五間、梁行一間、棧瓦葺になっている。

本尊は、木造金泥彫眼で来迎印を結ぶ阿弥陀如来立像である。像高五九・九糎、手足の部分は後補、金泥も後世の修復の際に施された。本体は一本彫で内朝はない。顔の部分は丸く比較的大きい。これに対し像の体部は扁平である。作は藤原時代も末期であろう。この阿弥陀如来の両側に、観音・勢至両菩薩を配して三尊になっている。向って左脇壇に木造善導大師立像と円光大師立像を祀る。右脇壇に、厨子入観音立像と弘法大師像を安置する。宝物に、三十三所観音画像、二十五菩薩画像、涅槃画像などがある。この中で、涅槃画像は紙本であるが、宝暦十年（一七六〇）の次の裏書がある。「宝暦

十庚二月十五日、阿弥陀寺什物、覺誓淳了代、葛下郡大西施主桑山左内」。阿弥陀寺の沿革は明らかでないが、こうした画像裏書は大切な資料となる。また境内に室町時代末の五輪塔残欠などがあるので、寺の来歴を考える参考になるだろう。

(和田寺) 観音寺町五六七

黄檗宗、廃寺。本堂と庫裡がある。

本堂は入母屋造の簡素な堂で、桁行・梁行とも二間半ある。外陣は土間、須弥壇中央に像高一五八・七糎の一木彫で手と足の部分が矧つけになっているが、後補である。下半身はひどく荒廃している。しかし全体として古拙ながら、量感があり、衣文の線に特色がある。平安時代の作、なお背板に延宝九年(一六八一)の修理銘墨書があり、現別に保存されている。この仏像の伝来はわからない。本尊の両脇に弘法大師と青銅の牛滝明王を祀る。

沿革は明らかでないが、以前はもっと堂宇が整っていたようであるが、二代目の僧が再興したのが現在の堂で、寛政十二年ごろ和田氏が開いた寺で、同村岡本氏一族の氏寺ともいう。本堂背後に岡本家の墓地がある。

正蓮寺 観音寺町五十九八

浄土真宗本願寺派。

表門・本堂・庫裡がある。

本堂は、桁行六間、梁行二間、棧瓦葺で、棟札によれば寛政十一年(一七九九)二月の建築であったが、大正十一年五月再建上棟されている。

内陣中央に、本尊阿弥陀如来立像(康雲作)を祀り、向って右に見真大師と聖徳太子、左に蓮如上人と七高僧の画像を祀る。

正蓮寺は、もとは真宗興正派で御所の円照寺の末寺であったが、明治八ごろ本願寺派となった。喚鐘に安永六年(一七七七)丁酉二月吉日、正蓮寺什物、施主得原平兵衛と刻まれているから、同寺の沿革を考える一資料となる。

観 福 寺 観音寺町八七三

小名山観福寺、浄土宗。

表門・本堂・観音堂・庫裡・墓地がある。本堂の背後はもとは小高い丘で古墳の石槨の一部が露出していたが、現在は平地になってすっかり地形が変ってしまった。

本堂は、四間四面本瓦葺で、内陣に本尊阿弥陀如来坐像、向って右に厨子入善導大師と法然上人の両祖師像を祀り、左に弘法大師像を安置する。本堂周辺には室町時代初めごろの宝篋印塔や五輪塔の残欠が多く見出される。なかには文明十一年(一四七九)や天文四年(一五三五)在銘の地輪もある。観福寺の開創はかなり古いように思うが、仏具の銘に延宝八年(一六八〇)とか貞享二年(一六八五)などの銘があるから、浄土宗の寺としてはこのころに開かれたものであろう。

観音堂は昭和五十八年旧堂と同規模で新築された。もとの堂は元文四年



観 福 寺

(一七三九) 八月の建物であった。本尊は寄木造素地の十一面観音立像で、持物や化仏が欠けているが、当初は宝珠を捻じ錫杖を執り磐座に立つ長谷寺形式の像と考えられる。室町時代の作で、ずっと以前は字「堂垣内」にあったものを移転したと伝えられ、鯛音寺町の由来を考える資料となるものである。

円教寺 光陽町三〇三

榛山円教寺、浄土真宗本願寺派。

門・本堂・庫裡がある。門は昭和五十七年再建、旧門は安政五年か。庫裡は昭和五十三年ごろ改造された。本堂はもとのままで、入母屋造向拝付瓦葺、桁行三間、梁行四間半ある。

本尊は阿弥陀如来像、康雲作、箸喰村惣道場什物の朱書がある。親鸞聖人画像は正徳二年(一七二二)に下付、聖徳太子、七高僧画像は宝永元年(一七〇四)に下付されている。

(葉師堂) 光陽町三〇五

葉師堂、地藏堂、廂堂などがあるほか、境内の一隅に石造十三重塔や二基の五輪石塔があり、室町時代以前の遺物とみられる。無住であるが、堂の背後にもとの庫裡らしき建物があり、居住している。本尊は高さ三〇厘余の葉師如来像で他に大日如来坐像もある。元禄十三年(一七〇〇)庚辰七月吉日、和州高市郡箸喰邑の銘が刻まれている。創立年代や由緒はわからないが、境内や堂の配置からみてかなりの寺であったと考えられる。付近に礎石らしい石もいくつか見出される。

本 福 寺 東池尻町二七三

浄土真宗本願寺派。

立派な門を入ると、正面から側面にかけて堂庫裡がある。門の由来はわからないが、鬼瓦に明和四年（一七六七）の刻銘が見える。本堂は内陣に、本尊阿弥陀如来立像を中心に、向って右に七高僧、見真大師、聖徳太子の尊影を、左に本如上人の画像をまつる。鑿に「和州十市郡東池尻邑道場什物、寛政十年（一七九八）二月日、施主善兵衛」の陰刻銘がある。寺の沿革を考える一資料になるが、それ以前のこととはわからない。

妙 法 寺 東池尻町四二〇

御厨子山妙法寺、高野山真言宗。

本堂は小高い丘の上であり、近くに新設の広い御厨子霊園がある。庫裡客殿などは本堂の下方にあり、最近新築された。前に池のある庭園がある。現在の本堂は、享保九年（一七二四）に再建された。内陣に珍しく大きい四方両開きの厨子がある。正面に本尊十一面観音立像を中心に、文殊菩薩と普賢菩薩を安置する。東面には不動明王、千手観音、愛染明王、虚空蔵菩薩、さらに西面に大日如来と勢至菩薩、背面には紙塑製阿弥陀如来と木造阿弥陀如来



妙 法 寺



浄福寺

などを安置している。仏像は江戸時代の作が多いが、なかには在銘の古い仏像もある。すなわち十一面観音は木造古色の彫眼像で、高さ七六・二糎あって室町時代の作と考えられる。紙塑製の阿弥陀如来坐像は珍しい仏像で、背面に一部穴があいていたたり、膝前が虫害で少し荒れている。重量は一・五疋の軽い像である。木造の部分もあるが、大部分は和紙を貼り重ねて麻布で仕上げられ、その作法は他に見られない特色がある。作の時代は江戸時代であろう。さらに一鉢木造漆箔、像高三四・六糎の阿弥陀如来坐像があるが、これは平安時代後期の作である。また木造大日如来坐像は高さ六〇・五糎、像内に墨書銘があつて、元亀二年（一五七二）に椿井仏師式部の作であることが記されている。

妙法寺の沿革は縁起によれば、当初右大臣吉備真備の創建と伝えられ、入唐して帰国後、その子善覚律師に命じて観音堂を建立させた。盛時には妙法寺、北室院、南室院などがあつたが、戦火のため一山全焼した。元禄年間に妙法寺を再建して現在にいたると。いまも本堂内に真備公の尊像を祀っている。

内陣の両側に、神戸市在住の画家左野柏樹氏から昭和六十年五月、同氏筆になる紺紙金泥の両界曼荼羅が奉納されたのが掲げられている。

昭和五十七年に境内の一角に長田晴山作の水子・子育て地藏が建立された。

浄福寺 南山町三二五

南光山浄福寺といい、真宗興正派に属する。

山門は切妻造破風付本瓦葺で、隣接して白壁の太鼓楼がある。庫裡は長い建物で、左手に鐘楼、右手に本堂がある。本堂の鬼瓦に寛文六年（一六六六）卯月吉日の刻銘が見える。内陣入口には、立派な鳳凰と天人の欄間があつて、裏面に元禄十四年（一七〇一）辛巳三月寄進の墨書がある。本尊阿弥陀如来立像を中心に、見真大師（寛永八年（一六三三）一）、聖徳太子（元禄九年（一八九六））、七高僧（元禄九年）などの尊像を祀っている。他にも本願寺、興正寺の御絵像がある。宝物の御絵伝に、享保七年（一七二二）の銘記がある。

沿革について、開基は赤井豊後守の家臣吉田五藤左衛門入道証空といい、浄土真宗を崇敬し、慶長十年五月二日にこの地に一字を設けたのに始まると伝える。元和九年（一六三三）九月、証空の子孫空心は、本願寺准如上人の弟子となり、浄福寺の寺号が許された。爾来現住職まで十七世相続するとされている。開基五藤左衛門証空所持の厨子入念持仏阿弥陀如来像が伝えられている。

興 善 寺 戒外町一二二

真言宗豊山派。

興 善 寺

香久山の文殊さんで親しまれている。

天の香久山の東に位置し、寺を含めて周辺は、奈良時代の古瓦片が散在し、地名に文殊院、大師院、宝寿院、照明院、最勝院、宝積院、遍照院、多聞院、吉祥院など寺跡に因む小字名が多く伝えられている。現在は、明治二十二年再建の桁行三間、梁行四間、向拝付の本堂と庫裡があるだけである。



しかし立派な仏像が残っている。本尊は文殊菩薩および侍者像で、いわゆる渡海文殊形式で五髯が揃っているのは貴重な存在である。いずれも松材寄木造玉眼で、獅子は彩色されている。文殊像は高さ八三・一糎、像内に墨書銘があって、寛正四年（一四六三）に大仏師定英によって作られたもので、興善寺の名も記されている。近くに桜井市安倍文殊院の快慶作のすぐれた渡海文殊像があるので、こうした群像を手本にして室町時代に造立したものと考えられる。文殊騎獅像の向って右前に優填王、後方に仏陀波利三蔵を配し、左前に善財童子、後方に最勝老人像がある。他に古い十一面観音立像がある。像高一〇一糎、金泥が施こされているが、これは後のことで本来は一木彫素地彫眼の像であつた。豊かな体軀であるが、衣文の線は弱い。化仏などいくらか欠損している。平安時代後期の作であろう。また別に、不動明王や弘法大師像も祀られている。

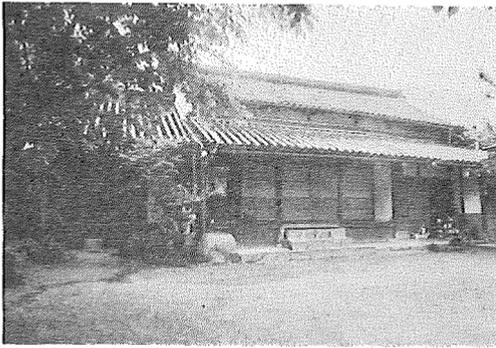
興善寺は、大安寺の道慈律師が開いた香久山寺、すなわち香山寺の後身といわれているが、近在には奈良時代後期の瓦が検出されている。

日向寺 南浦町五四

日向寺

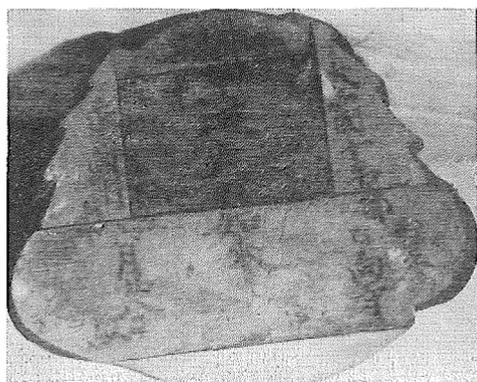
浄土宗。堂庫裡、大日堂などがある。

本尊は阿弥陀如来、大日堂に大日如来坐像を祀る。この像は、木造素地彫眼で像高三〇・八糎ある。像底に「大和国十市郡香久山日向寺／奉造大日如来／永正九年壬申六月廿八日／願主文漢敬白」の墨書銘があつて、室町時代（一五二二）の作であることがわかる。境内の内外に飛鳥時代や白鳳時代の古瓦が検出さ



れる。以前は礎石もあったというが、見当たらない。古い日向寺の名は『聖徳太子伝暦』の太子建立寺院の中に見える。『古今目録抄』にも四十八院中に日向寺がある。恐らく当初は、蘇我日向臣の氏寺として建立されたものである。日向寺は香久山の南麓にあって天岩戸神社に隣接する。

法 然 寺 南浦町九〇八



日向寺大日如来像墨書銘



法 然 寺

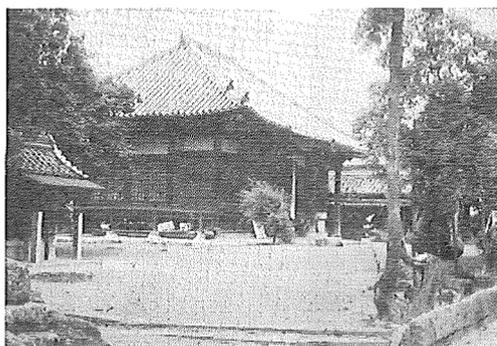
香久山少林寺法然寺、浄土宗。

表門・本堂・鐘楼・客殿・庫裡・墓地があつて、境内はかなり広い。客殿座敷に面して、香久山を背景に美しい庭園がある。この地方には珍しい名園である。

本堂はかなり古い建造物で、鬼瓦に延宝六年（一六七八）の銘があるが、後の修理であろう。本堂の広い内陣には、本尊阿弥陀三尊立像を中心に、善導大師、法然上人像を配し、木造彩色の地藏菩薩半

伽像などを祀っている。本尊はいわゆる浮足の阿弥陀如来像である。なお別に、木造漆箔の高さ五三・五種の阿弥陀如来坐像がある。室町時代の作。

法然寺は鎌倉時代の初めごろ、源空（法然上人）が高野から橘寺を経て御帰還の途上、この地に巡錫せられ少林寺を開いて念仏化導の道場とせられた。その後大永八年（一五二八）夏に、知恩院第二十六代敏蓮社保譽源派上人（日野大納言豊光卿の御令息）が隠居され、寺号を法然寺と称するようになった。現在法然上人靈蹟二十五霊場の第十番札所になっている。



保 寿 院

本堂前に天正十六年（一五八八）の自然石名号碑を始め、墓地に慶長十八年（一六一三）の万人講供養碑や、天正年間の背光五輪塔碑などの古碑がある。

保 寿 院 膳夫町一〇一

膳夫山保持院、真言宗豊山派。

本堂・鐘楼・庫裡・大師堂・地藏堂・弁財天社がある。境内に続いて三柱神社がある。本堂前方に大きい礎石が点在し、境内一带に古瓦片が散乱していて、白鳳時代の瓦当文のある瓦が発見されている。寺跡は、聖徳太子妃膳夫姫がその養母古勢女の菩提のために建てた膳夫寺と伝えられる。鎌倉時代に焼失したので後に一堂を建立した。これが保寿院本堂であると。この付近には、寺跡に因む小字名も残っている。しかし膳夫寺とか仁階堂遺跡については他説もあってなお今後の検討を要する問題もないではない。

本堂は桁行三間、梁間三間、寄棟本瓦葺で、明治五年の板札によると、享保二十三年（一七三八）の再建であることがわかる。本尊は虚空蔵菩薩で、高さ一五三糎の立像で室町時代の作である。なお保寿院はもと普門院と称した。膳夫寺の故地にあるので今後の説明が期待される。現保寿院には、本尊の他に聖徳太子二才像、弘法大師坐像、不動明王立像などが祀られている。宝物に両界曼荼羅図、弘法大師画像、大般若経などがある。

蓮生寺 膳夫町三一六

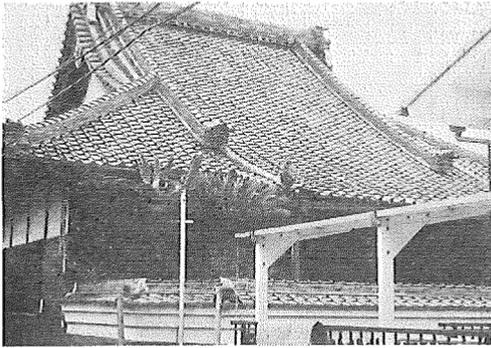
芹摘山と号する。浄土真宗本願寺派。

門と本堂、新しい庫裡がある。芹摘山の山号は、この辺りの道が太子道といわれているから、聖徳太子妃に因んでつけられたものである。本堂は、吉野郡黒滝村の寺から移した。本尊は阿弥陀如来立像、高さ五四糎、本堂の前に「ア・ビ・ラ・ウーン・ケーン」と刻んだ自然石の種子の碑がある。

念仏寺 膳夫町三五八

山院号なし。浄土宗鎮西派知恩院末。

膳夫町は藤原原跡の東方に当り、天香久山を望む。寺は集落の中にあり、門を入ると左手は墓地になっている。本堂は堂庫裡になっていて右手にある。本尊は阿弥陀如来、高さ七五・七糎ある。庫裡の庭をはさんで別座敷がある。堂庫裡に宝暦三年の棟札があると聞いた。



蓮生寺

なお、墓碑の中に、少し古いのがあがるが、これは宝暦年間の百姓一揆で周辺の村人たちと陳情に京師に登り処刑された膳夫代表の墓で、毎年同区の人たちが今も懇ろに供養をしている。

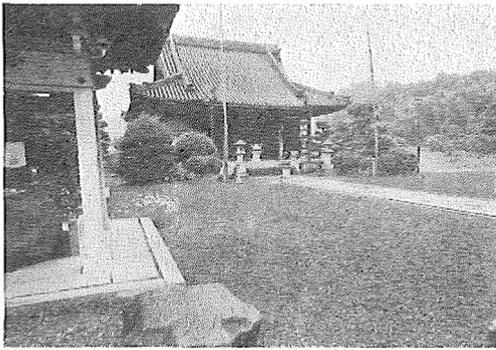
興 福 寺 下八釣町一三五

八釣山興福寺といい、浄土宗の寺である。

八釣の地藏さんと呼ばれていて信仰する人が多い。本堂・地藏堂・休憩所・水船がある。水船の傍らに古い礎石が一個据えられている。地藏堂には古式的首切地藏と新しい法界地藏の二つの石地藏を祀る。

本堂は桁行四間、梁行四間、向拝付三方廊下であるが、現在は両側の廊下をとりこみ、堂内は広くなっている。本尊は木造地藏菩薩半跏像で、室町時代のすぐれた作であるが、作風からみて宿院仏師系の作であろう。両側に厨子入の阿弥陀如来立像と観世音菩薩立像を祀っている。

(土井 實)



興 福 寺